

mifunet

みふねっ

御船町災害支援団体ネットワークの記録

mifunet

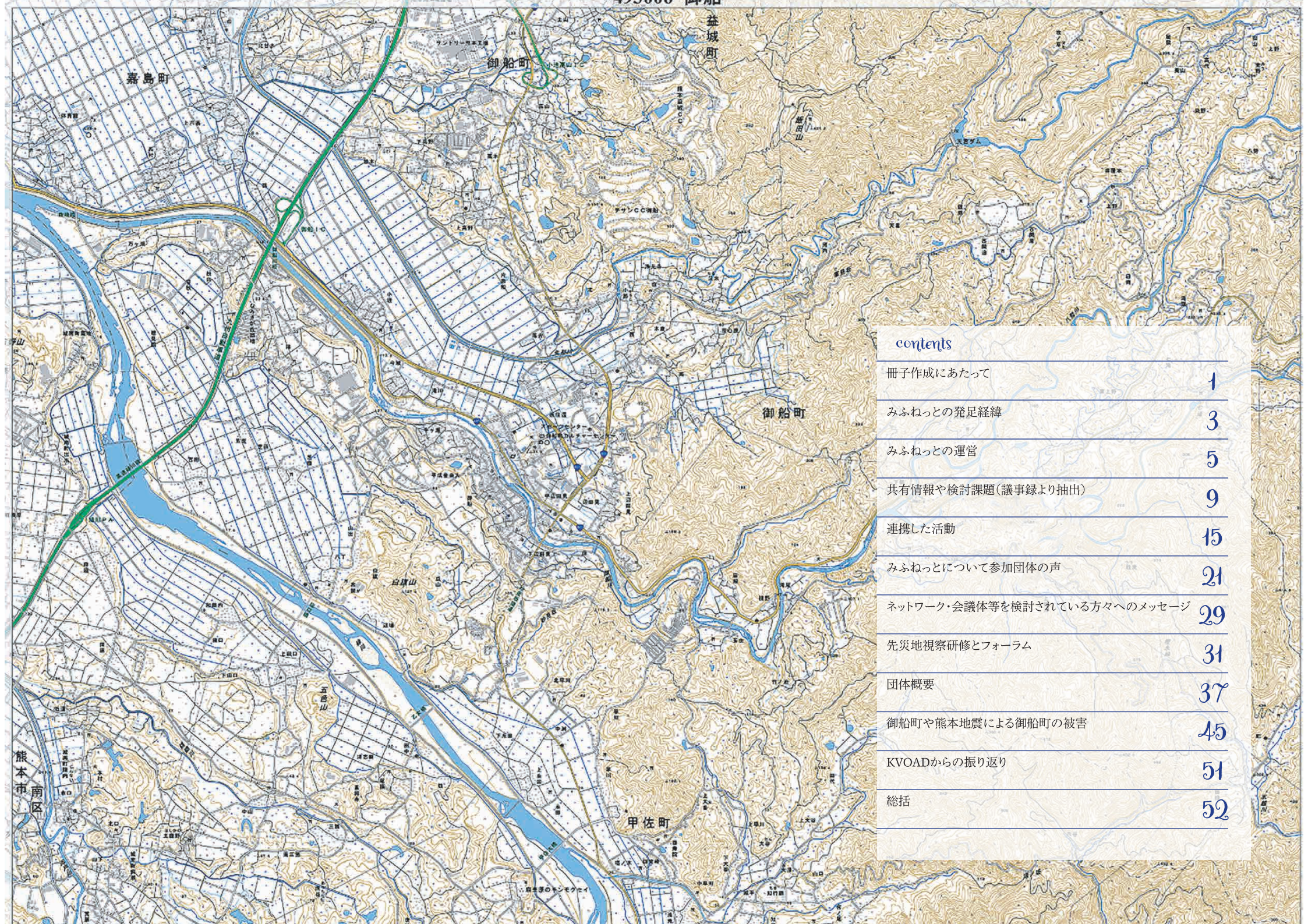
mifunet

Record of Network for Disaster Response
Organizations Active in Mifune Town
Kumamoto Earthquakes

みふねっ

#熊本地震

#御船町災害支援団体ネットワークの記録



contents	
冊子作成にあたって	1
みふねとの発足経緯	3
みふねとの運営	5
共有情報や検討課題(議事録より抽出)	9
連携した活動	15
みふねつについて参加団体の声	21
ネットワーク・会議体等を検討されている方々へのメッセージ	29
先災地視察研修とフォーラム	31
団体概要	37
御船町や熊本地震による御船町の被害	45
KVOADからの振り返り	51
総括	52

冊子作成にあたって

2016年4月14日、16日に発生した熊本地震から5年を迎えて



▲御船町のゆるキャラ「ふねまる」



移築され管理棟として活用されている。



▲御船町ふれあい広場(通称:恐竜公園)／熊本地震発災直後には「テント村」として活用され、その後に仮設団地が建設された。現在、町内3箇所のみんなの家が

御船町

御船町においても被災された住民の住宅再建や災害公営住宅の建設が進み、建設型及び賃貸型仮設住宅に入居していた方が退去され、見守りや再建支援、コミュニティ形成に尽力された御船町地域支え合いセンターは、2021年3月末をもって閉所となりました。

熊本地震発生から約1年が過ぎた2017年3月、御船町において被災者支援活動をしていた団体が集まり、会議体を立ち上げました。この会議体「御船町災害支援団体ネットワーク(通称:みふねつと)」は、2017年8月から2018年7月までは、ジャパン・プラットフォーム(以下、JPF)の「熊本県被災地における支援団体、被災者、行政等の

連携促進活動の支援」として「市町村域で住民・行政・支援団体を『繋ぐ』役割を担う団体への助成」を受けて(幹事団体:Project九州)、被災した住民が必要とする支援のニーズを把握し、町全体の支援状況を共有しつつ、各団体が連携して有効な支援活動を行うことを目指し、会議体の運営が継続されました。参画していた団体で連携した活動も行われ、それは会議体が解散した後も継続されました。

みふねつとでは様々な情報や課題が共有され、多くの活動を共に行いましたが、これまで全体的に御船町における会議や連携について振り返ってまとめた資料はありませんでした。参画した団体が、その意義や課題を振りかえり、共有することは、参画した団体の活動の区切りとなるだけでなく、次なる災害時での連携促進のために役立てられると考えました。さらに、御船町での経験を共有できる資料を残すことで、他災害地の行政や社会福祉協議会、地域支え合いセンター等、これまでNPO等支援団体との連携の経験が少ない組織や関係者にとって、市町村域連携のための一助となるようにとの願いを込め、本冊子をまとめることにしました。

共有内容

- 各団体からの近況・課題報告
(初参加団体の自己紹介)
- 前回あがった報告や課題の経過の共有
- 新たな課題や情報共有
(仮設・みなし・在宅・地域における支援ニーズ・支援状況等)
- 次回会議の日程と開催場所

開催頻度

月1回を基本として開催した。



開催日時	参加団体(者)数	会場	
第1回	2017年3月11日	12団体(20人)	熊本市市民活動支援センターあいぼーと
第2回	2017年4月22日	10団体(14人)	熊本市市民活動支援センターあいぼーと
第3回	2017年5月20日	12団体(15人)	御船町カルチャーセンター会議室
第4回	2017年6月10日	6団体(11人)	御船町カルチャーセンター会議室
第5回	2017年7月16日	8団体(12人)	九州北部豪雨発生。運営団体が現地入りのため中止。
第6回	2017年8月24日	5団体(8人)	御船町カルチャーセンター会議室
第7回	2017年9月22日	7団体(11人)	御船町カルチャーセンター研修室
第8回	2017年10月13日	9団体(14人)	御船町カルチャーセンター研修室
第9回	2017年11月17日	7団体(9人)	御船町カルチャーセンター会議室
第10回	2018年1月19日	8団体(12人)	御船町建設課参加
第11回	2018年2月16日	9団体(14人)	御船町カルチャーセンター研修室
第12回	2018年3月23日	8団体(14人)	御船町カルチャーセンター研修室
第13回	2018年4月20日	10団体(17人)	御船町建設課参加
第14回	2018年5月11日	9団体(14人)	御船町カルチャーセンター研修室
東北被災地域視察研修	2018年5月18-20日	6団体(14人)	
老朽化した町営住宅入居者の支援に関する共有会議	2018年5月25日	5団体	御船町カルチャーセンター研修室
第15回	2018年6月15日	7団体(15人)	御船町カルチャーセンター会議室
フォーラム	2018年7月7日		御船町街なかギャラリー南蔵
第16回	2018年7月13日	8団体(14人)	御船町カルチャーセンター研修室
第17回	2018年8月24日	10団体(21人)	御船町スポーツセンター会議室
第18回	2018年9月14日	9団体(19人)	御船町スポーツセンター会議室
第19回	2018年10月14日	5団体(10人) + 民生委員児童委員協議会・区長	御船町街なかギャラリー南蔵
地域役員との交流会	2018年11月16日	2団体(4人)	御船町カルチャーセンター研修室
第20回	2018年11月16日	2団体(4人)	御船町カルチャーセンター研修室
解散式	2019年7月20日		

連絡方法

グループメーリングリストを作成した。会議開催等の連絡や、議事録の共有等に活用した。

メーリングリストの管理は運営団体で行った。

開催場所

第二回までは、熊本市内の会場で開催し、第三回から御船町内の施設にて開催した。

運営事務局

事務局は、Project九州、バルビー傾聴ネットキーステーションが担った(幹事団体:Project九州)。

※2018年9月まで



準備、進行、記録

町内の会場手配は、町内団体や運営団体で行った。会場にかかる費用についてはJPF助成期間は助成金で算出した。運営団体で次第案を準備し、メーリングリストで共有した。進行は、幹事団体が担った(欠席の場合は、他の運営団体)。

記録は主にバルビーが担い、WEB上のファイルに2~3人で共同編集した。作成した議事録は運営団体間で確認後、参加者に共有した。また議事録の共有範囲はネットワーク参加者とした。



参加団体（団体名称は参加当時）※順不同

1 御船ライオンズクラブ	町内
2 オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト	町内
3 特定非営利活動法人みふねデコボコ会	町内
4 御船町社会福祉協議会 御船町地域支え合いセンター	町内
5 公益財団法人熊本YMCA（御船町地域支え合いセンター）	県内
6 株式会社くまもと健康支援研究所（御船町地域支え合いセンター）	県内
7 NPO法人傾聴ネットキーステーション	県内
8 特定非営利活動法人バルビー	県内
9 エルビスくまもと	県内
10 くまもと支援アートdeセラビー	県内
11 手創り夢工房OWL	県内
12 NPO法人みるくらぶ	県内
13 一般社団法人スタディライフ熊本	県内
14 特定非営利活動法人ソナエトコ	県内
15 一般社団法人ふるさと発・復興志民会議	県内
16 NPO法人子育て応援おきな木	県内
17 Project九州	県外
18 特定非営利活動法人レスキューストックヤード	県外
19 一般社団法人日本イスラエイド・サポート・プログラム	県外
20 社会福祉法人御船町社会福祉協議会	オブザーブ
21 社会福祉法人熊本県社会福祉協議会 熊本県地域支え合いセンター支援事務所	オブザーブ
22 特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAD)	オブザーブ

参加団体

合計19団体が最低1回会議に参加し、希望者はメーリングリストに登録した。

町内団体は4団体、県内団体は12団体、県外団体は3団体。

うち、継続的に参加した団体は、7団体。

オブザーブ参加団体は、3団体。

共有情報や検討課題 (議事録より抽出)

第1回2017年3月11日

- 会議趣旨説明
 - ・各団体でできる活動をしている状況↓団体同士の連携強化と役割分担の明確化と活動団体と支え合いセンターで情報共有
 - ・住民ニーズに合わせた支援を考える必要性
 - ・被災直後から活動していたレスキュースタッフやドが昨年12月で常駐終了し地元で長期支援を担う必要性
 - ・連携会議を行っている他市町村会があることも支援者が把握したニーズや情報が支え合いセンターや市町村と共有できる。KVOADの役割。
- 御船町における被災者支援体制の概要共有
 - ・地域支え合いセンターを担っている団体と分担内容
 - ・地域支え合いセンターへの活動申込新システムと手続方法
- 団体自己紹介
 - ・これまでの活動を通じ見えた課題や情報の共有
 - ・仮設団地の自治形成や仮設団地間でのコミュニティの差
 - ・みんなの家の利用
 - ・仮設団地の多さと団体間の協力でモレのない支援をする必要性
 - ・在宅避難者やみなし仮設入居者の状況
 - ・支援者と住民の関係づくりや害にならない支援
 - ・活動メンバーの交通費
- 会議の枠組みや運営 役割分担

第2回2017年4月22日

- 会議趣旨説明
 - ・御船町で活動する団体の関係づくり。
 - ・町内の他会議体からの共有も含め、地域支え合いセンターと連携
 - ・支援ニーズを把握し有効な支援活動をする。
 - ・足並みをそろえた支援
 - ・みなし仮設入居者や在宅避難者も含め、町全体の支援状況を共有し、ムラ、格差を軽減。
- 団体自己紹介
 - ・初参加3団体(御船町社協地域支え合いセンター含む)
 - みなつ以外の全議体
- 各団体や活動内容のマッピング
 - ・情報と課題共有
 - ・子ども支援が少ない。予定している企画あり、団体の協力が必要。
 - ・老朽化した町営住宅に在宅避難している世帯の支援。
 - ・団体の協力必要。
 - ・みなし入居者と地区の交流イベントを地域とともに企画。
 - ・地区ごとに順に開催予定、団体の協力が不可欠。
 - ・集まりが一旦中止となっている地区。

第3回2017年5月20日

- 団体自己紹介
 - ・初参加3団体(御船町教育長来訪含む)
- JPF事業助成の幹事団体について
 - ・前回あがった報告や課題の進捗
 - ・子ども支援、地元キーパーソン中心に支え合いセンターとともにみんなの家の支援実施予定。キーパーソン連絡試み中。
 - ・老朽化した町営住宅入居者の支援 状況進捗と検討
 - ・みなし入居者と地区の交流イベント企画進捗。地区選定と区長との調整等。
 - ・集まりが一旦中止となっている地区の現状と今後の支援のあり方。
- 新たな課題や活動等
 - ・20戸未満の仮設団地に建設されるみんなの家にトイレがつかない。
 - ・みなし入居者の訪問状況に必要な配慮
 - ・みんなの家の壁に絵を描くプロジェクト、9カ所完了。
 - ・6/18ライオンズ復興イベントの開催、団体への協力依頼

第4回2017年6月10日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・JPF事業助成 運営経費以外に活動も組み込める。東北へ研修に行くのも可能か。
 - ・子ども支援。キーパーソンと団体の組み合わせ済み。
 - ・20戸未満仮設団地のみんなの家2つ。トイレなし。キッチンあり。エアコンなし。支援者には近隣施設のトイレを開放する対応をしている。
 - ・みなし入居者と地区の交流イベント企画進捗。
 - ・6/18復興イベント企画進捗。広報開始した。
 - ・引越し支援がない。車両が必要だが、管理が問題。東北での無料リースの例。
- 新たな課題や活動等
 - ・震災時の写真パネル。映像資料あり。活用歓迎。
 - ・県外の関連組織から炊き出し申し出。住民支援↓支援団体の慰労をしたいとのこと。
 - ・自治会長や支援者の話を聞いたところ、疲弊が激しい。支援者支援を検討可能。



第5回2017年8月24日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・8/27陣地区域交流会 企画詳細と準備進捗。
 - ・20戸未満仮設団地のみんなの家のトイレ、エアコン等。すまいる、町と県で話してもらおう。
 - ・老朽化した町営住宅入居者支援。
 - ・引越し支援引越し業者のポスティングが仮設団地で多くみられる。高齢者に優しいプランなどあり。
 - ・6/18復興イベント報告。
 - ・中止していた仮設での活動は、現在も変化なし。支援必要な人が得る手段をもたないままではないか危惧。
- 新たな課題や活動等
 - ・災害公営住宅建設進捗。
 - ・長期避難者のいる既存町営住宅。
 - ・9/30イベント、協力団体募集中。
 - ・関係組織が他県から来て、仮設訪問予定。
 - ・世代間の問題があった仮設で、交流イベントを予定。解決の契機になれば。
 - ・9/27異域のみなし入居者対象の交流イベントにつながるエリア開催。
 - ・次回 全議後後に親睦会。

第6回2017年9月22日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・8/27陣地区域交流会報告と11/2高木地区交流会企画。
 - ・9/2つながらるエリア報告。
 - ・9/30子どもイベント、ケガや事故の心配。ボランティア行事 保険加入提案。
 - ・8/27世代間課題のあった仮設で仲良くなる仕組みとしてイベント開催予定。
 - ・20戸未満仮設団地のみんなの家進捗。エアコンは社協が中古探して取り寄せ。他備品は今後検討。
 - ・災害公営住宅の建設進捗。100戸予定。建設決定。
 - ・長期避難者のいる既存町営住宅。住民への説明会開催予定。
- 新たな課題や活動等
 - ・11/2高木地区交流会企画と協力要請。
 - ・七滝地区で予定していた企画は台風で流れた。今後は思案中。
 - ・地区のみでやていけそうなど、協力が必要そうなど。イベントスケジュールの共有が必要↓支え合いセンターで把握しているスケジュール共有可能。
 - ・社協支え合いセンタースタッフ体制の変更。

第7回2017年10月13日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・9/30子ども体験まつり報告。
 - ・20戸未満仮設団地のみんなの家 備品を関係組織に発注済み。外の足場が悪い。高木ふれあい祭りへ企画進捗。対象者数、周知。団体の役割分担。
 - ・長期避難者のいる既存町営住宅。説明会あり、片付けのため長期開放日が決定。社協臨時ポラセン開設決定。ボランティア募集中。KVOAD能白掲載も活用。
 - ・イベントスケジュールの共有。支え合いセンターで使用しているカレンダーを共有。
- 新たな課題や活動等
 - ・仮設でカフェを巡回実施中。
 - ・11/5滝川仮設イベント予定。住民からの要望。団体協力。
 - ・11/26落合仮設イベント予定。団体協力。
 - ・南木倉仮設で映画上映会の企画。
 - ・企業のメイックアップイベントを複数仮設で開催済み。
 - ・カラオケネットを複数仮設に寄贈。
 - ・陣地区民生委員より絵手紙を用いた活動の依頼あり。

第8回2017年11月17日

- 初参加2団体
 - ・前回あがった報告や課題の進捗
 - ・高木ふれあい祭り報告と反省点共有 参加団体の感想。
 - ・20戸未満仮設団地のみんなの家進捗。1カ所は夏から手付かず。県からの備品納入あり。
 - ・長期避難者のいる既存町営住宅。工事等進捗。災害公営に入れないか等。
- 新たな課題や活動等
 - ・木造仮設の再利用。
 - ・災害公営住宅進捗。
 - ・12月の地区や仮設団地交流会予定。

第9回2017年12月22日

- 初参加1団体
- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・地区交流会の今後の予定。レスキューストックヤードが支援に入っている地区でもやれることでは。
 - ・長期避難者のいる既存町営住宅の進捗。長期避難解除は工事進捗次第か。
 - ・20戸未満仮設団地のみんなの家。1カ所は町へ引き渡しが行われていなかったが判明。先口手続き完了。
 - ・老朽化した町営住宅入居者の支援。支援団体はどうかかわればよいか不明。支援体制を整える必要あり。
 - ・木造仮設の今後。御船町には県内最多の161戸の木造仮設。有効利用検討委員会が今月開始する。有効利用の意見あれば。
 - ・11/13滝川仮設、11/27谷合仮設で交流イベントのサポート。
- 新たな課題や活動等
 - ・支え合いセンターで在宅も訪問中。山間部では用水路、地盤、擁壁の修復が問題で再建が進まないところも。
 - ・計8カ所でクリスマス会を開催。年明けからは基本木曜日にも各仮設でカフェ継続。
 - ・12/20今城仮設で高齢者見守り、フワリーアレンジメント活動。仮設退去者に残っている人の間に壁ができていくように感じる。
 - ・12/23、24オルムふなね復興祭。
 - ・町内で避難所として使用された施設の調査を1月から実施。
 - ・3月ライオンスクラブ復興イベント。団体の協力要請。
 - ・アロマ石鹸づくり、マッサージなどできるメンバーもいる。
 - ・仮設入居者と人と交流できない人や認知症に関する講演会2/3で開催。
 - ・被災者を博多座へ招待する事業あり。
 - ・被災地視察研修に参加。みふねでも企画できればよい。
 - ・みふねとして今後、実施したいこと意見交換。活動を地域の方に知ってもらう。被災地視察、被災地から熊本へ来てもらう。仮設住宅を移設して活用している宿泊施設で合宿研修。



○新たな課題や活動等

- ・御船小児童が富山県の小学生と交流した。
- ・滝尾小児童と名古屋、岐阜の小学生が交流した。
- ・上野地区の農家の販促支援を実施中。
- ・御船町の震災記録誌を作る予定あり。町民主体で作成したい。記録から退きを増やして、寂しさを感じる時期。災害公営でのコミニケーションの難しさなどを軽減するため今から対策する必要あり。
- ・社協支え合いセンタースタッフ体制変更。
- ・みふねと主催研修会の企画。

第13回2018年4月20日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・4/8オルムふなね復興祭を開催した。
 - ・老朽化した町営住宅入居者への支援。5/25に別途会議開催。木造仮設の有効利用。現在入居中の人に一旦出てもらうかどうか等の課題あり。
 - ・先災地視察。航空機支援のための書類申請等。スケジュール作成。飛行機予約等。役割分担決定。
 - ・みふねと主催研修会企画。7/8月予定。スピーカ招き予定。会場、日程、広報など検討。
- 新たな課題や活動等
 - ・玉田仮設で祭典会予定。
 - ・4/15KVOAD主催2周年記念シンポジウム報告。
 - ・YMC A支え合いセンター事務所が南木倉仮設みんなの家から移転。
 - ・各仮設団地の更なる情報必要。見えていない課題があるのでは。必要性がわかれば活動可能。

第14回2018年5月11日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・博多座ツアーに御船町住民が約90名参加し喜ばれた。
 - ・老朽化した町営住宅入居者への支援。5/25関係課参加について。木造仮設の有効利用について進捗共有。
 - ・みふねと主催研修会。7/7決定。二部構成にし、講演と視察。研修報告会。会場予約、広報、準備等の役割分担検討。
 - ・先災地視察。参加者の事前ミーティング。
- 新たな課題や活動等
 - ・引越しの支援のため6月に社協が臨時ボラセン実施。町がトラックを用意。ボランティア募集中。
 - ・供与期限が過ぎたが、延長要件に当てはまらずに方針が数件ある。

第15回2018年6月15日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・町営住宅住民支援の課題共有会議の報告。行政の業務であることと再確認。住宅移転課題というより、対人援助であること共有。臨時ボラセン。30名ほどのボランティア参加予定。
 - ・木造仮設の有効利用進捗。木造仮設が残る住み続けられるではない。住民への丁寧で正確な説明必要。
 - ・7/7みふねと主催研修会準備。役割分担と各団体ことに行う報告準備期間。
- 新たな課題や活動等
 - ・地域交流会の開催にむけて、地区に戻りやすくすることを目標に継続。6/24七瀬復興祭。8/26上野交流会が決定している。
 - ・七瀬復興祭はバルビーに依頼し協力団体等を調整中。
 - ・6/3、4ライオンスクラブ連合会のイベントの報告。
 - ・6/5南木倉仮設交流会の報告。
 - ・6/10谷合仮設交流会の報告。住民参加型の交流が必要。できれば団体が担当仮設を決めて、継続的に関わりたい。

第16回2018年7月13日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・7/7みふねと主催研修会の振り返り。区長からどうやって団体とつながればよいのかと連絡あり。むすぶく作成中であり共有してもらえ。
 - ・6/16、17臨時ボラセン報告。
 - ・6/24七瀬復興祭報告。
 - ・8/26上野地区交流会。バルビーに調整依頼。その後も他地区で開催予定のため、協力依頼。
- 新たな課題や活動等
 - ・玉田仮設での交流会実施依頼。複数団体が企画中。
 - ・住民状況として、仮設やみなし入居者で退去できない理由は、自宅の建設待ちと災害公営待ちが半々。
 - ・みふねとの今後のあり方や必要な支援。災害公営住宅入居前からの交流促進が必要。校区単位での交流支援など。
 - ・住民リーダーや行政との連携。
 - ・区長や民生委員との連携を深めるため、まず交流会を行う。声かけ等の段取りを役割分担。
 - ・引越のしている支援団体等によりかけ、みふねと交流会企画。8/12があれば祭り。

第17回2018年8月24日

○前回あがった報告や課題の進捗

第11回2018年2月16日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・上野地区交流会は仕切り直し。みふねとや支え合いセンターとしっかり検討したいとのこと。
 - ・3/24ライオンスクラブ主催復興イベントへの協力。支え合いセンターとコラボがみなし入居者を招待。対象を限定しない再建相談会も併設。
 - ・老朽化した町営住宅入居者への支援進捗。前回町建設課との話し合い。協理要請あり。関係者での支援体制構築。NPOの役割と位置づけの確認が必要。心配要素多いため、まず関係機関で課題共有の場を設ける。
 - ・木造仮設の有効利用。町有住宅として残す可能性あり。
 - ・先災地視察。参加者、目的、視察先など取りまこめる。町役場も参加できれば。
- 新たな課題や活動等
 - ・博多座への招待。
 - ・今城仮設の個別訪問依頼をうけ、来週から訪問開始。
 - ・3/21町全体対象のYMC A主催交流イベント開催予定。他団体協力あり。
 - ・2/10甘木仮設で活動。
 - ・2/4みなし入居者交流会につながるエリアメント開催された。御船町被災者支援担当者会議でみふねとについて共有した。

第12回2018年3月23日

- 前回あがった報告や課題の進捗
 - ・ライオンスクラブ主催復興イベント。植木温泉への招待と町内でイベント。
 - ・3/21町全体対象のYMC A主催交流イベント。複数団体が協力。NPOや調整等はいつもありバルビーに依頼。
 - ・4/24博多座への招待。山間部を優先に周知。
 - ・避難所の調査。30カ所はあった避難所の周辺等を調査。
 - ・老朽化した町営住宅入居者への支援。町担当課との話の結果。課題共有を図る開催。
 - ・木造仮設の有効利用。仮設ごとに詳細の情報共有。有効利用について意見募集。みんなの家も有効利用を検討中。
 - ・先災地視察。5/18に決定。スケジュール検討。

▼区長や民生委員児童委員との会に向けて作成されたみふねっと紹介チラシ

御船町災害支援団体ネットワーク紹介

御船町災害支援団体ネットワーク(通称みふねっと)とは…

御船町災害支援団体ネットワーク(通称みふねっと)は、2016年4月14日に発生した熊本地震以降、御船町で被災地域並びに住民支援を行っている、または行う予定がある団体で構成されているネットワーク会議体です。2017年4月の発定から月に一度のペースで定例会議を行っています。

それぞれができるのか共有しながら協力して支援するための関係を作り、その時地域で生じている課題を明確にし、それぞれができる支援を形にして有効な「支援活動」を行うことを目的としています。

そのために、県のネットワークなどはかの会議体で上がったことも共有しながら、御船町を支援する各団体が定並みをそろえて支援にあたっています。

また、2018年5月には被災地での復興支援をどのように行ってきたか先達から学ぶために、宮城県視察を実施しました。

視察では行政、社協、民間団体、地域住民など幅広い方々から学びを得ることができ、その内容は2018年7月7日に「熊本地震 これからの地域の復興に必要なこと」と題して報告会を開催させていただきました。

これは行政や社協職員、民間団体だけでなく、地域住民にもお越しいただくことができ、地域が一体となって復興に取り組むその一助となれたのではないかと考えています。

また、このような会は今後も何らかの形で継続してまいりたいと考えております。

私どもは、官民一体となって地域の持つ力を最大限発揮していくことが復興には必要だと考えています。それぞれが、それぞれにできることを足並みをそろえて行っていくために、何卒ご支援ご協力の程よろしくお願いたします。

【主な構成団体】
 オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト、みふねデコボコ会、御船ライオンズクラブ、エルビスくまもと、バルビー、傾聴ネットキーステーション、Project九州、御船町社会福祉協議会地域支え合いセンター、くまもと健康支援研究所(地域支え合いセンター) 熊本YMCA御船町地域支え合いセンターなど(順不同)

《お問い合わせ先》
 御船町災害支援団体ネットワーク
 Mail: mi fune work@gmail.com



第20回 2018年11月16日

元運営団体のいすれも参加できなかったため町内2団体のみ。その後、町内団体のひとつより今後の方針を話し合う必要性についてメールングリストで共有された。

第19回 2018年10月14日

○区長・民生委員との交流会
 町内団体が主となり区長会等、地域に案内や説明を行い、参加を呼び掛けて実現した。

第18回 2018年9月14日

○前回あがった報告や課題の進捗
 ・次期JPF事業助成。御船ライオンズクラブ、オールみふね恐竜の郷復興プロジェクトが幹事団体を引き受けることが困難という結論に伴い、JPF事業助成を受けないことを決定した。
 ・みふねっと活動資金として、町内団体を中心に共同募金等の活動資金の申請等を検討することとなった。今後は、会議進行および議事録作成を持ち回りで行うこととした。
 ・みふねっとの今後の活動。意見交換。

・8/19玉虫仮設で消防によるAED訓練と茶話会報告。
 ・区長や民生委員との交流会企画進捗。みふねっと紹介チラシ作成、周知などの役割分担。区長会でライオンズから説明した上で交流会を開催。
 ・行政との連携企画。テーマを決めて会議に招待。例として、被災者の現状(災害公営住宅についてなど、調整窓口)を支え合いセンターに担当いただく。
 ・みふねっと交流会企画。10月予定。
 ○新たな課題や活動等
 ・みなし仮設世帯は18世帯に減少。訪問に力を入れている。
 ・8/18レスキューストックマート主催夏祭りに参加。
 ・上野古閑迫地区復興150周年祭のサポート。
 ・Project九州より、7月末でJPF事業が終了したことを機に、町内団体から新事務局、幹事団体を選出し、運営をパトナッチしていきたいとの表明。次期JPF事業の幹事団体選出について要検討。運営団体候補、それぞれ持ち帰り検討。

第21回 2018年12月14日

前回会議で日程が決定されたが、周知がうまくいかず、成立せず。

2019年1月

検討課題や日程調整についてメールングリストで共有されたものの日程決定に至らず。

2019年7月20日

町内団体の働きかけで、一旦の区切りとして解散式が行われた。ここで培われた縁は大切に、御船町復興のためゆるやかにつながりを保ち、今後も必要ながが生じたら助け合うことが確認された。

◀2018年10月14日
 区長や民生委員児童委員との交流会。各団体の活動紹介と意見交換を行った。

連携した活動

▼2017.6.17 西往還仮設
「茶話会&アロマでリフレッシュ!」

▼2017.6.18
「ライオンズ御船町被災地支援まつり」

▼2017.5.21 小坂仮設
「作って食べよう交流会」

▼2017.4.8 下高野第二仮設「こどもスペース」

▼2017.4.9 南木倉仮設「お花見交流会」

▼2017.4.15 「YMCA未来笑店街」

▼2017.4.23 下高野第二仮設
「AED講習と作って食べよう交流会」

2017.08

●2017.8.18
玉田 甘木仮設
みんなの家完成

●2017.7
平成29年7月九州北部豪雨

▲2017.5.28南木倉仮設
「AEDや消火器講座と作って食べよう交流会」

▲2017.7.30 東小坂仮設「住民交流会」

▲2017.6.11木倉仮設「作って食べよう交流会」

▲2017.4.30高木仮設「作って食べよう交流会」

御船町では、多種多様なジャンルの支援団体が連携し、それぞれの得意分野を発揮しながら御船町で被災された方々のよりよい未来に向けて様々なカタチで支援活動が継続された

▼2017.3.26 滝川仮設「AED講習と交流会」



2017.03

●2017.3.11
みんなの会議開始

●2017.1
団体合同の活動開始

▲2017.3.29 ふれあい第一・第二
「仮設合同交流会」



9102

2016.4.14,16 熊本地震

- 2016.6 建設型仮設住宅 3カ所完成 入居開始
- 2016.10.11 地域支え合いセンター開所
- 2016.10.31 避難所閉鎖
- 2016.11.26 災害ホッペン開所
- 2016.11 建設型仮設住宅 全て完成
- 2016.12 RSY常駐終了

▼2018.8.26 上野古閑泊寅舞保存会
「150周年記念式典と交流会」



▼2019.3.21 スポーツセンター
「YMCA春の御船住民交流会」



▼2018.10.28 滝尾地区「滝尾公民館秋まつり」



2019

2019.7.20
みまねつて解散式

2019.3
地域支え合いセンター
再受託先 業務終了

2019.3
最初の災害公営住宅完成

▼2018.6.10 落合仮設「落合みんなで交流会」



▼2018.6.24 旧七滝小「七滝地区復興祭」



御船町の被災された方々が
本当の意味での復興に
向かうよう願いを込めて
行政・社協・NPO等の
連携した支援活動は
開催されるたびに強化された

▼2018.8.18 上野地区「ミニ夏祭り」



2018.11.27
中原団地へ周辺の
長期避難世帯 認定解除

▼2018.3.24 「ライオンズ御船復興祭」



▼2018.4.8 街なかギャラリー
「オールみふね復興祭」



▼2018.6.5 南木倉仮設
「住民BBQ交流会」



2018

2018.7 平成30年7月豪雨

▼2017.8.27 「陣地区域交流会」



▼2017.9.30 がわっぱ広場「みふねこども体験まつり」



2017



▲2017.11.26 落合仮設「ふれあい祭り」



▲2018.3.21 スポーツセンター「YMCA地域交流会」



▲2017.11.5 滝川仮設「住民交流会VIVA!滝川」



▲2017.11.12 高木小「高木地区ふれあい祭り」



連携した活動一覧(2017.1~2021.3)

※以下は、みふねっとと議事録及びバリエーの活動記録から連携した活動を抽出。団体が個別に実施した支援活動等は含まれておりません。

- 2017.1.29 西往環仮設「モノづくり交流会」
- 2017.2.12 落合仮設「モノづくり交流会」
- 2017.3.12 今城仮設「AED講習と交流会」
- 2017.3.26 滝川仮設「AED講習と交流会」
- 2017.3.29 ふれあい第一・第二仮設「合同交流会」
- 2017.4.8 下高野第二仮設「こどもスペース」
- 2017.4.9 南木倉仮設「お花見交流会」
- 2017.4.15 YMCA「未来笑店街」
- 2017.4.23 下高野第二仮設「AED講習と作って食べよう交流会」
- 2017.4.30 高木仮設「作って食べよう交流会」
- 2017.5.21 小坂仮設「作って食べよう交流会」
- 2017.5.28 南木倉仮設「AEDや消火器講座と作って食べよう交流会」
- 2017.6.11 木倉仮設「作って食べよう交流会」
- 2017.6.17 西往環仮設「茶話会&アロマでリフレッシュ!」
- 2017.6.18 ライオンズ「御船町被災地支援まつり」
- 2017.7.30 東小坂仮設「住民交流会」
- 2017.8.27 陣区「域交流会」
- 2017.9.30 がわっぱ広場「みふねこども体験まつり」
- 2017.11.5 滝川仮設「住民交流会VIVA!滝川」
- 2017.11.12 高木小「高木地区ふれあい祭り」
- 2017.11.26 落合仮設「落合ふれあい祭り」
- 2018.3.21 スポーツセンター「YMCA地域交流会」
- 2018.3.24 ライオンズ「御船復興祭」
- 2018.4.8 街なかギャラリー「オールみふね復興祭」
- 2018.6.5 南木倉仮設「住民BBQ交流会」
- 2018.6.10 落合仮設「落合みんなで交流会」
- 2018.6.24 旧七滝小「七滝地区復興祭」
- 2018.8.18 上野地区「ミニ夏祭り」
- 2018.8.19 玉虫仮設「AED講習と茶話会」
- 2018.8.26 上野古閑迫真舞保存会「150周年記念式典と交流会」
- 2018.10.28 滝尾地区「滝尾公民館秋まつり」
- 2019.3.21 スポーツセンター「YMCA春の御船住民交流会」
- 2019.8.24-25 庁舎周辺「映画祭:御船に映画がやってくる!」
- 2019.10.27 北田代分館「北田代美緑のむら里まつり」
- 2019.11.3 滝尾公民館「滝尾公民館まつり」
- 2020.3.8 スポーツセンター「YMCA住民交流フェスタ」
- 2021.3.14 スポーツセンター「YMCA御船町復興住民交流会」

▼2019.11.3 滝尾公民館
「滝尾公民館まつり」



▼2019.8.24-25 庁舎周辺「映画祭:御船に映画がやってくる!」



▼2019.10.27 北田代分館「北田代美緑のむら里まつり」



2019

●2021 熊本県独自の「緊急事態宣言」発令
●2021.1 建設型仮設住宅「すての世帯」が退去
●2021.3 地域支え合いセンター閉所

●2020 令和2年7月豪雨

●2020 最後の災害公営住宅完成

●2020 新型コロナウイルス感染症
熊本県内で初の感染確認



◀御船町地域支え合いセンターに消毒液等寄贈

●2019 建設型仮設団地
解体開始

聞き取り団体一覧

団体名	回答者 (2021年3月現在)	備考
御船ライオンズクラブ	会員 ※会議には災害復興委員や会長、副会長等が参加	
熊本YMCA	公益財団法人 熊本YMCA 御船町スポーツセンター 所長	地域支え合いセンターの再委託先のひとつとして複数仮設団地を担当
Project九州	代表、副代表	
傾聴ネットキーステーション	理事、復興支援責任者	
バルビー	代表理事、事務局長	
御船町社会福祉協議会および御船町地域支え合いセンター	総務係および主任生活支援相談員	
熊本県社会福祉協議会 熊本県地域支え合いセンター支援事務所	県社協地域福祉課主事 (地域支え合いセンター支援事務所担当職員)	
御船町役場復興課 復興推進係	係長	

- ① 参加したきっかけ
- ② 参加にあたり期待したこと
- ③ 参加にあたり不安だったこと
- ④ みふねっとへの参加が被災者支援活動にどのように役立ったか
- ⑤ みふねっとが存在したことの意味をどう感じているか
- ⑥ みふねっとのあり方等に疑問や課題を感じたことがあったか、どのようなことか
- ⑦ 上記の疑問や課題が改善されたか、された場合どのように改善されたか
- ⑧ みふねっとをよりよくするとすれば(開催中に改善されなかった点も含め)どのような点を改善するか
- ⑨ その他みふねっとに関してご自由に
- ⑩ 東北視察研修に参加した感想やみふねっとメンバーで研修した意義

みふねっとに参加した団体のうち、継続して会議に参加していた団体に協力を依頼し、紙面にて聞き取りを行った。
以下の項目について回答をいただいた。(2021年2月実施)

みふねっとについて参加団体の声



◀2017年5月20日
「第3回みふねっと会議」
@御船町カルチャーセンター
この会議から御船町内にて開催。

考察

みふねっとは、団体が情報を共有し、連携することで、より効果的に住民や地域の状況やニーズに沿った活動を行うことを設立当初の目的としており、被災者支援活動におけるみふねっとの役割や存在意義についての振り返りから、その目的はある程度達成できたと思われる。聞き取り内容からは、定例的な会議継続への期待もあったこともうかがえた。

復興時期や支援ニーズの変化とともに、会議体としての目標や役割を再確認し、必要であれば会議体も変化していくことが求められる。会議体に参加する各団体の活動状況や見通しも運営体制に関わる大切なことであり、それらを共有しながらネットワークの持続性、会議の目的や必要性、運営方法について確認していく必要がある。

また、災害支援を機に構築されたゆるやかなネットワークが地域に存在することは、復興支援から連続した次なる課題対応のための連携の可能性や次なる災害時の迅速な連携という可能性を秘めている。

地域支え合いセンターは町からの委託事業を担っている立場として、活動の制限もあった一方、みふねっとに参加したことで行政と会議体のパイプ役の役割を担っていた。行政との連携が思うようにならなかったと感じていた団体もあったが、地域支え合いセンターや熊本県地域支え合いセンター支援事務所の会議参加により、間接的に行政との情報共有や連携がなされたといえる。検討した課題によっては、町の担当課がみふねっとにゲスト参加した会もあり、町職員が連携イベントの手伝いをしていた場面もあった。

御船町役場復興課より

熊本地震を経験し、災害時に必要なことをいくつか実感しました。

その中のひとつが人との「つながり」です。

みふねっとにもそのつながりが凝縮されていて被災者の困りごとや
再建支援に多くのご尽力をいただきました。

期待したことと不安だったことについて

みふねっとに期待したことは、情報共有や協力し合うことにより、支援の幅の広がりや質の向上、効果的な活動ができることであり、団体間である程度共通していた。一方で、参加当初は各団体が様々な不安を持っていたことがわかった。団体の活動への理解がされるか、取りまの役を誰が担うのか、会議の様子や雰囲気かわからない、会議体の目的をどこに置くのかなどがあり、また設立の声かけをした立場としては、団体が集まるかどうかを不安に思っていた。

参加のきっかけについて

すでに協力して活動していた団体にとっては、共有のための会議に参加することは自然な流れであり、会議に参加することにより、互いに情報共有し、協力してより良い支援を行うという共通の意義を見出していた。他の団体は、声がかかったことをきっかけに、また情報共有や連携を図るために参加していた。

被災者支援活動に
どう役立ったかについて








みふねっとは、支え合いセンターを含め団体間での情報や課題共有や信頼関係構築の場となり、住民や地域に寄り添った団体間で連携した効果的な被災者支援活動の実施に役立っていた。また、異なる視点での意見交換により支援を多角的に考えるきっかけや支援者のモチベーション維持や活動継続につながったという点でも活動に役立っていた。








みふねっとが存在したことの
意義について

みふねっとが存在したことにより、以下の意義があったと感じられていた。定期的に顔を合わせることで信頼関係が構築され、互いの活動内容を知り、各団体の強みを活かすことができた。共通の目標に向かって連携して活動できたことで、より良い被災者支援につながった。会議体があること自体が、支援の継続性や連続性を高めることにつながった。また、社協や町との連携のきっかけとなった。

感じていた疑問や課題とその改善について

みふねっとの役割確認や限界設定した上での課題対応、各団体の役割と必要性の認識、資金面など、会を重ねる中で改善された疑問や課題がある一方、復興状況の変化に伴う継続性や運営体制など、改善されなかったと感じられていた課題もあった。改善方法として、求められる支援内容の変化に応じた会議体の目的設定や役割の明確化、並びに各団体の参加の目的、会議体における立ち位置や役割の明確化、さらには最終的にゆるやかなネットワークが持続するよう町内に既存の市民団体とのつながりの模索などがあげられた。

みふねっとに参加したきっかけ	みふねっとへの参加にあたり期待したこと	みふねっとへの参加に あたり不安だったこと	みふねっとへの参加が 被災者支援活動にどのように役立ったか	みふねっとが存在したこと の意義をどう感じているか
 <p>御船ライオンズクラブ</p>	<p>復興支援の一つは「みんなの家」での活動支援であった。当時のライオンズクラブ会長の福富氏が、復興支援活動をきっかけに声を掛けられ、参加した。</p>	<p>一つ、一つの団体では限界を感じていた。ちょうどその頃「みふねっとと会議」の存在を知り、他の団体との共同での様々なアプローチができるか、とても期待がもてた。</p>	<p>取りまとめ役をだれが担うか？ 各団体には責任者があり、取りまとめをだれが担うか、非常に不安だった。支援への仕事内容がうまく理解できていなかったため、各活動への積極的参加が出来なかった。</p>	<p>他の団体と共同することで、これまでにない活動を経験できた。多方面のアプローチが可能となり、支援活動が充実できた。今後も今回のような発展的アプローチが出来ればと思った。</p>
 <p>熊本YMCA</p>	<p>仮設団地住民の支援をする中でハルビーさんはじめボランティア団体の方々と連携する中で、一致団結、連絡を取り合いながら支援を充実させていこうという自然発生的に参加をした。</p>	<p>たくさんの支援団体が協力し合うことで、住民の皆様への支援の幅が広がりました。支援の質も高まること。</p>	<p>みふねっとは連絡会議となりながら、情報交換と共有がしっかりしてましたので特に不安要素はなかった。</p>	<p>物質的な支援、メンタル的な支援等支援の幅が広がり、質が高まった。また課題共有もしやすくなり、社協、町との連携もとりやすくなった。町も組織的なボランティア団体があることは大変心強かったのではないだろうか。</p>
 <p>Project九州</p>	<p>これまでに当団体が参加していた火の国会議やごみ会議の経験を経験済み、御船町にもこのような会議が必要と感じた。具体的には御船町で支援活動を行ってきた、あるいは行う可能性のある団体同士が情報共有しながらより有効な支援を行うために連携が必要と感じ、設立を呼びかけた。</p>	<p>各団体が連携、情報共有などしながら協力し、実際のニーズに即した支援活動を有効に行うこと。</p>	<p>団体数が集まるかどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社協などの支え合いセンターと連携できたことで、より住民の実際に即した支援活動を行うことができた。 ・復興イベントなど大きな会において、スムーズに参加団体の調整ができた。 ・ほかの団体の顔が見えることで団体間の信頼関係が強まり、連携してよりよい支援活動ができたと感じている。 ・活動における団体間での役割分担がしやすかった。 ・ほかの団体との交流を通して、活動のしやすさなどの実利面だけでなくモチベーションの維持向上など精神的な面でも支えとなった。 ・特に当団体のような同職種で構成される団体にとっては異なる視点からの意見を得ることができ、より多角的に支援を考えるきっかけとなった。
 <p>傾聴ネットワークステーション Keicho Net Key Station</p>	<p>避難所支援から繋がっていた、Project九州が御船で活動を始めた後吉村代表の誘いにより御船での活動を開始した。その後、ハルビーと共に活動をする中で、連携会議に参加するようになった。</p>	<p>団体として支援活動する中で、傾聴はお話をきくだけの活動であり、被災者の皆さまのこころの中を少しでも軽くなるよう聴かせていただく作業しかできないため、被災者の心情を理解し会議で支援団体や地域の支援団体、行政などに伝え被災地での支援拡大ができればいいなと思った。 ※支援拡大とは、傾聴が必要の人へ行かせていただくこと。実際に傾聴カフェに参加した人だけの傾聴が中心になってしまったことは、支援が不十分だったのではないかと考えた。 しかし、気持ちと反対に、当法人の組織体制が脆弱だったことも理由としてあげられる。</p>	<p>心のケアの専門家への信頼はあったのかもしれないが、人が心に抱えている思いを聴くだけでもその人の心が軽くなるということに対する理解がないかもしれないという中で、私たちの活動が本当に求められているのだろうかと迷い込んだことも最初はあった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元以外の支援団体の会議体でできたことで、社協や行政を少し巻き込めたことはよかったと思う。(私の知る範囲なので少しがたかったかもしれないが。) ・また会議体があったことで、行政が他の方を取り入れる必要性を感じたのではないかと思う。
 <p>ハルビー BULBY</p>	<p>地域での連携した活動を大切にしており、ニーズはもとより各活動や課題を共有する機会があることで、御船町での効果的な活動につながったため。</p>	<p>参加団体が活動内容、情報や課題を共有する場となり、住民・地域ニーズに沿って、団体間で連携した効果的な活動ができること。</p>	<p>時期ごとの課題を共有できた。各団体の企画等の情報が共有され、町内での支援活動が把握できた。 ・団体同士で協力しあえたことで、支援活動が充実した。単独では無理がくると思われる活動を連携することで継続して開催できた。 ・地域支え合いセンターが参加されたことで、支え合いセンター企画の交流イベント等に協力することになった。特に地元を主体とした地域住民交流会に継続的にかかわることができたことは有意義だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的顔を合わせて話をする機会ができたことで、それぞれの考えや思いも共有でき、信頼関係や顔の見えた関係が構築できた。 ・団体間（立場は違っても）で、連携した被災者支援をすることの大切さが形になった。単独での活動とは異なる、調整に努力が必要だが、協力や助け合いながら作り上げる支援は全体として効果的な支援となる。ここでできた人と人としての関係は、今後も継続すると思う。
 <p>御船町社会福祉協議会および御船町地域支え合いセンター</p>	<p>イベント、交流会支援等を行うにあたって情報の共有と連携を図るため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集と共有化 ・交流会、イベント等の支援に対する依頼や連携 ・仮設でのもの作りや物資の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議参加に対する経緯が不明で、会の雰囲気、様子から不安だった。 ・支え合いセンターとみふねっとでは、活動の対象範囲の違いによる協議内容の違いがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各支援団体の活動内容が確認でき、会議を重ねることでお互いの信頼関係ができて協力を願いやすくなった。 ・交流会等に協力を頂いたことで、会場が盛り上がり子ども大人まで楽しんでくれた。震災を乗り越える後押しになった。 ・交流会、イベント等での舞台演出さんや出店ブースのボランティア団体のマッチング、段取りをお願いできたことでセンター職員負担軽減ができた。 ・家電を初めとする物資の支援が大きかった。 ・他団体開催の交流会にコラボしてみなし仮設や仮設入居者を招待することができた。 ・仮設団地で気になる世帯に「お話し相手」として関わって頂いた。住民との信頼関係ができ、心の変化を感じた。
 <p>熊本県社会福祉協議会 熊本県地域支え合いセンター 支援事務所</p>	<p>本会では、熊本地震の発災後、市町村社協や市町村地域支え合いセンターの後方支援を行っており、御船町地域支え合いセンターとも連携しながら、被災者支援の活動に取り組んできた。また、火の国会議に参加し、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）やハルビー等を通じて、様々なボランティア団体と災害支援や地域交流の活動等に協力し取り組みを実施していた。 そのような中、御船町においては、様々な機関・団体が協力し、被災者支援活動に取り組むための連携会議「みふねっと」が実施されているとの情報を知り、本会からも参加をさせていただいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・御船町における支援団体等の情報についての収集 ・支え合いセンター（社協）や様々な支援団体等との連携 ・被災者支援を実施する中での課題や支援方法の共有と検討 ・イベント情報、支援情報等の収集と協力 など 	<p>会議体の目的をどこに置いて実施するのかということ。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告等の情報の共有 ・支援団体間の連携 ・支援課題についてのケースの検討 ・行政や社協の地域組織等への意見・要望など 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体間の情報を共有することにより、被災者自身や地域の課題等の共有につながった。 ・様々な支援機関・団体が参加していたことで、団体間の調整や協力した取組へとつながった。 ・それぞれの団体の企画やイベント等に対して、他の機関や団体が協力することで、被災者の方々にとってもより良い企画の実現へとつながった。 ・支援者間の情報共有等が行いやすくなった。

みふねっとのあり方等に疑問や課題を感じたことがあったか、どのようなことか	上記の疑問や課題が改善されたか、された場合どのように改善されたか	みふねっつをよりよくするとすれば（開催中に改善されなかった点も含め）どのような点を改善するか	その他みふねっつに関してご自由に
 <p>活動に対する資金調達について、明確な方向性がなかったこと。 金銭管理について多少なりとも疑問を感じていた。 運営について、一部の団体に負担をかけたがっていた。</p>	<p>被災先進地である東北への旅費は支援が明確となり、活動の意義も理解できた。</p>	<p>各団体での「温度差」が問題でもある。なんとなくの支援ともなりかねない現実。関係団体間での責任の範囲を決める。 責任が明確でないのがボランティア団体の不明瞭さかもしれないが、また、お互いの連絡について不安があった。 お互いの連絡に時間がかかることがしばしばであったので、各団体で責任者を決め、責任をもって対応する必要があると感じた。</p>	<p>地域の団体、県内の団体、任意の団体、全国の団体など、様々だと思う。 被災地での支援活動を大局からみて支援する「団体協議会」のような「合議体」が必要であると感じた。（平常時から訓練されている協議会） 社会福祉協議会だけでは無理があると思う。（公的支援の限界・・・かも）</p>
 <p>・継続性をいかに持つか。復興というものは、時とともに変化していく。その変化にどこまで対応すべきなのかということではないかと思う。 ・個人的にはせっかくできた任意ボランティア組織なので、例えば、これから毎年必ず発生する線状降水帯による大規模洪水、経験したことのない台風被害に対してどう住民さんに貢献するのか、指定避難所ができたときには何かしらの支援などは市町村職員にとって大変心強いと思う。災害月の6月～11月限定の活動も考えられると思う。また、地域へのまちづくり支援への存在となることも意義ある活動になると思う。</p>	<p>みふねっとは組織的役割までは限定的ではなかったために（そこが良い点でもあったのかもだが）、自然に活動が残念ながら停滞したように思う。</p>	<p>先述のように、ゴールをどう設定するのか（いつまで活動するのか）、それとも災害時に支援をしたり、まちづくりに協力することも考えていくのか。 みふねっとの存在意義と役割を明確にすること。</p>	<p>がちがちの団体ではなく、柔軟性をもった楽しい団体でありたいですね。</p>
 <p>行政との連携、いわゆる官民連携ができなかった。ひごまる会議や火の国会議では行政の方も参加して同じテーブルで話し合いができていたが、みふねっつでもこれができればよかったと感じている。</p>	<p>改善されなかった。</p>	<p>「みふねっとのあり方等に疑問や課題を感じたことがあったか、どのようなことか」に記載した点。</p>	<p>皆様とともに活動できたことでたくさんのご経験を学ばせていただきました。この経験をまた次につなげていければと思います。</p>
 <p>・地域を良く知るわけではなかったということ、月2回ぐらいしか支援に入れなかったことで、支援全体の情報に私たちが追いついていないこともあり、会議で聞いてもどの地区の課題なのかわかりづらく、何となく場外で聞いているような気がしていたので申し訳なく思うことが多かった。 ・会議で課題があっても、伝えていても何も手つかずで、解決へと進んでいないことがあった時の会議に参加した理事長は、復興支援の現状の厳しさに愕然としていたのが印象的だった。</p>	<p>・一度だけホワイトボードに課題が書かれたことは目に見えた取り組みの必要性を感じたこと。 ・みふねっつとメンバーのそれぞれの団体の役割と必要性を感じたことは良かったと思う。 しかし短期間だったのが残念だった。</p>	<p>・短時間の中での課題解決への話し合いは、みふねっつだけではできないことも多く、行政の関係課の参加が必要と思う。あとからのみふねっつ会議には参加された関係機関もいたのが良かったと思うが、最初からならなお良かったのかもしれない。 ・支援に入るとき最初から「みふねっつと会議」という組織があったら団体が入りやすかったのではないかと思う。</p>	<p>もっとみんなで交流ができればよかったですね。</p>
 <p>・把握された課題に対し、みふねっつとしてどこまでできるのか。どこまでするのか。 ・連携会議の事務局機能の引継ぎ。町内に主体を引き継ぎたいと思いつ、具体的な引継ぎが伴っていないかった。</p>	<p>・課題によっては、みふねっつとの立場や役割をわきまえて対応することができたように思う。 ・JPF事業が終了した後も連携会議や連携した活動は継続した。会議は日程調整等が困難となった状況が続いた。最終的に、ライオンズクラブ主導で解散式が開催された。</p>	<p>・定例的な会議は不必要となったのか、必要だが継続困難なのか、必要性がある際は開催するのかな等を検討した上で建設的解散ができればなおよかった。 ・最終的に、町内でゆるやかな連携が保たれることが一つの目標だと思う。町内の市民団体とのつながりを、連携会議を通じてより広く培えればと開始当初から思っていたが困難だった。地元での息の長い連携のためには、何かしらの形でつながりを構築することが必要。一方で、御船ライオンズクラブやオールみふね恐竜の郷復興プロジェクトのみなさんが参加していたおかげで、会議での意見交換や協働した活動ができ、住民の意見や状況の把握に繋がった。</p>	<p>御船町で被災された方や地域の復興を目標に、継続して情報や御船町での課題を共有できたこともだが、頻繁に顔を合わせることで人と人のつながりが強くなったと思う。地域支え合いセンターの継続的参加があったことも大きい。</p>
 <p>・各団体ごとに視点も違うので、町民へのアプローチもまちまち。 ・他団体が良いご提案をされても受け入れられなかったこともあった。 ・当センターが町からの委託による活動ということで、活動の制限もあった。</p>	<p>・改善はされなかった。提案をあきらめられた。 ・会議に参加できたことで、行政のパイ役になれた。</p>	<p>・まず、お互いの役割や目的、立ち位置の明確化 ・「みふねっつ」が何をやる集合体なのか、目指すものは何かをはっきりさせる。なお、お互いの守備範囲を知ることで今後の活動への一石が投げられた。 ・お互いの会議に対する到達値</p>	<p>御船町のためにご支援くださりありがとうございます。 地域交流支援ではセンターの「地域につなげたい」という趣旨にご理解、ご協力頂き感謝申し上げます。 「みふねっつ」の力でお祭りも華やかなものになり、住民さんにも喜んでいただきました。 ボランティアにはこういう形もあるんだと知って頂く機会にもなっと思います。</p>
 <p>・みふねっつを通じて、地域の支援機関・団体のつながりが出来たことは大変良かったことであるが、会議体を継続していくにあたり、運営を担う幹事団体の調整が苦慮されている様子であった。</p>		<p>被災者の方々が置かれる状況や求められる支援の内容も刻一刻と変化している為、そのフェーズに合わせて会議体の目的をどこに置くのかといった検討が必要。</p>	



会議はボランティア、市町村、社協等なるべくその地域の多くの団体、組織が関わり、いつでもオープンでフレンドリーであることが活性化につながると思います。
(熊本YMCA・御船町地域支え合いセンター 藤川登士郎)



連携会議体を維持運営していくことには、メリットがたくさんありますがやはり多大な労力も伴います。災害支援においては“つつい”頑張りすぎてしまうことがありますので、お身体にはご自愛ください。
(プロジェクト九州 吉村仁、宇津貴志)



ネットワーク・会議体等へのメッセージ 検討されている方々

お互いのことをよく知ること。自分達でできないことは甘えることも必要と思います。
まず、動くこと、やってみることの大切さがわかりました。
(御船町社会福祉協議会・地域支え合いセンター 中島直子・田中里美)



立場や方法は異なっても、同じ目標を共有できる場があることで、被災した人や地域を主体としたぶれない活動ができると思います。互いを尊重し、助け合うことで結果的に被災された人への効果的な支援につながります。
元気がでる、集まりたいと思う場ができるといいですね。
(バレービー 岳中美江)



災害地での支援団体の使命は、常に被災者の心に寄り添い復興支援という明確な目的を持ち互いの役割を理解し尊重し合い信頼できる取り組みを行うことで被災者と共に一日も早い復興へ前進していくための大事な連携だと思っています。
(傾聴ネットキーステーション 土井和子)

情報を共有する場は本当に大切です。それぞれの団体が進む方向は同じでもいろいろな道筋があることを理解し、行動していることを分り合えていけば、ひとりでは悩んでいたことも道が開けてきます。発災後、支援する側もされる側も多くのストレスを抱えます。連携会議で定期的に顔を合わせ言葉を交わすことでコミュニケーションをとることができ、ストレスも軽減されます。
また、いろいろな情報が共有できることで被災者の方々への支援の幅も広がります。
(御船町役場復興課 復興推進係長 本田恵美)



このような活動はとても重要です。世界中が激変するなか、支援の在り方を学び、必要な支援をどの様な形で支援するか日常から考え検討していくことが大切です。皆で連携会議の必要性を学び、これからの支援に役立てていきましょう。
(御船ライオンズクラブ 増田安至)



御船町災害支援団体ネットワーク(みふねっと)東北視察研修スケジュール

	5月18日(金)	5月19日(土)	5月20日(日)
午前	7:35 熊本発 ▶8:40伊丹着 ANA522 9:50 伊丹発 ▶11:05 仙台着 ANA735 レンタカーピックアップ	※2日目は各団体それぞれで研修 ・傾聴ネットキーステーション 仙台傾聴の会	ホテルチェックアウト▶七ヶ浜へ(車で40分) 10:00 七ヶ浜中央公民館 共有ミーティング(19日の研修について) 七ヶ浜町被害と復興状況の説明(役場) きずなネットとランチ交流会
	12:00 昼食 ※Project九州は17日現地入り みやぎ心のケアセンター訪問後に合流	・Project九州 多賀城市で県臨床心理士会多賀城支援チーム	12:00 きずなネットとランチ交流会 13:30 七ヶ浜町視察(RSYアテンド)
午後	13:00 名取市「岡上の記憶」訪問	・オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト 石巻市語り部による案内 女川町の語り部、女川町議員による語り部と交流 ホテル・エルファロ(女川町トレーラー・宿泊料)意見交換、宿泊	13:30 きずなハウス 15:00 七ヶ浜出発
	14:00 岩沼市 市民会館 会議室 岩沼市社協、JOCA、仙台市社協、宮城県社協 と意見交換	・バルビーと県社協 10:00 女川町大原災害公営住宅 (区長、女川町社協)	16:00 レンタカー返却▶空港へ
夜	ホテルチェックイン 19:00 現地団体と懇親会	13:30 仙台市 あすと長町第二市営住宅 集会所 (つながりデザインセンター・あすと長町) 16:00 仙台市 国見・千代田のより処 ひなたぼっこ (全国コミュニケーションサポートセンター)	17:35 仙台発 ▶18:55 伊丹着 ANA738 19:35 伊丹発 ▶20:45 熊本着 ANA529



会議をする中で、みふねっとメンバーで先災地の視察研修を行うことが検討され、宮城県での視察研修が実現した。参加希望団体を募り、視察先やスケジュールなどを検討し、分担して準備した。3日間の視察研修のうち、2日目は、各団体それぞれの目的に合う視察先で研修を行い、3日目に研修内容を共有した。また、後日開催したフォーラムにて、視察研修で得た内容を共有するために御船町にて報告を行った。

【宮城県被災地域視察研修】

参加者

6団体(14人)
Project九州(3人)
御船ライオンズクラブ(3人)
傾聴ネットキーステーション(2人)
オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト(2人)
バルビー(3人)
熊本県社会福祉協議会(1人)

日程

2018年5月18日～20日

予算

JPF事業予算及び
復興支援リーダー・コネクト・プログラムを活用

※復興支援リーダー・コネクト・プログラム：
熊本県内で活躍する次世代の復興リーダーが、過去に災害の起こった地域への視察や、そこで活躍する方々との交流を通して、今後の熊本県の復興に活かすためのプログラムで航空券代をANAホールディングス株式会社が支援。



目的

先災地として復興を進めている宮城の被災地の現状と課題を知り、いまの熊本にとってどのような課題が出てきそうか、どのような復興支援が有効であるかについて学ぶ。御船町災害支援団体ネットワーク全体および各団体の、これまで及び今後の支援のあり方について、客観的な支援から検討するため、以下の視点を重視する。

- ①被災住民の全体的なニーズの変化の見通しについて理解する。
- ②住民個々のニーズの内容がどのようなものであるかについて理解する。
- ③支援団体の状況(団体数、支援の中身など)が時間とともにどのように変化していく傾向にあるのかについての見通しを学ぶ。
- ④どのような支援団体がどのような支援をしてきて、さらに有効だったものや失敗だったものなどを学び、それらの知見を今後の支援のあり方に活用する。

持続可能な創造的まちづくりの実現に向け、具体的なアクションプランを見出すことを目的に研修に臨む。

先災地視察研修とフォーラム



視察研修に参加した感想やみふねつとメンバーで研修した意義

御船ライオンズクラブ

非常に興味深い経験でした。先進被災地でのライオンズクラブ国際協会の支援など知ることができた。支援内容も更に深く勉強できた。視察できたことを次の支援に役立てる事が出来たので、とてもよかった。

プロジェクト九州

東北の支援の経緯を知ることができ、先を見据えた支援計画をイメージしやすくなった。当団体と同職種の方々と触れることができ、専門性をどう生かすかについて学ぶことができた。みふねつとともに活動する団体が皆で行けたことにより、結束が強まった。

傾聴ネット

キーステーション

東北研修に参加できたことはとても良かった。先災地の視察や意見交換、体験を聴けたことは、支援団体としての意義を感じた。また被災地の支援団体や社協の皆さんとの交流は一体感を感じた。当法人からも参加できる人を多く募りたかった。(主婦が多いため泊りがけが難しい面もあったので仕方なかったが。)

バルビー

みふねつとメンバーで、ともに感じ、学ぶことが出来た。また、ピンポイントで今後の熊本への復興支援について学びたいと思っていたこと(例：災害公営住宅でのコミュニティ形成や課題)について、話を聞くこと

むすぶっく

視察研修中に、仙台市、仙台市社会福祉協議会の「つなカタログ」の取り組みについての詳細を聞くことができたことがきっかけとなり、熊本でも地域と活動団体をむすぶ情報冊子の作成に取り組みむこととした。視察研修中に「これだ！」と直感したメンバーが数名おり、宮城にいた間に話が深まり、冊子の名前まで視察研修中に決まった。今後、復興とともに地域づくりを担う地域住民が、熊本地震で継続して活動する団体の活動内容を理解し、必要な際には相談をして協力を得られるための仕組みづくりを行うこととした。

仙台市の場合には市域での仕組みづくりをされていたが、熊本では県域での取り組みを行うことが有意義と考えた。熊本県社会福祉協議会地域支え合いセンター支援

ができ、現地を見ることができたことは、その後の熊本での活動に活きている。東北での支援の例を伺っている際に、複数人が熊本でも必要！とその場で直感したことを、熊本で実現化できた(例：むすぶっく作成)ことも、この視察研修の賜物。力を合わせて地域に向けた報告会ができたことも併せて、みふねつとしての視察研修は大変有意義だった。

熊

本県社会福祉協議会(熊本県地域支え合いセンター)支援事務所

東日本大震災からの復興の状況から、熊本地震からの今後の地域の復興について考えたり、現在も被災者支援等に取り組みされている支援機関・団体等との意見交換や情報

事務所と熊本県ボランティアセンター、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)で協働し、活動団体に関する情報を掲載する情報誌の企画や編集を行った。熊本県内で被災者支援活動を継続していた団体に協力を呼びかけ、活動概要等をまとめた。初版は、熊本地震から約3年後の2019年3月に発行した。

第二版は、JPF助成を活用し、熊本県社会福祉協議会、KVOAD、バルビーが協働して企画・編集を行い、2019年9月に発行した。冊子は、地域支え合いセンター、行政担当部署、仮設団地集会所、自治会等に配布するとともに、ホームページからのダウンロードもできるようにした。



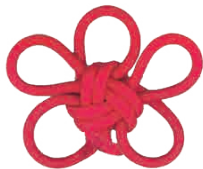
人と地域をむすぶ「むすぶっく」

<http://musubook.bulby.net/>

「イベント」「作業」「コーディネート」「その他」の分野別の32の活動が掲載されています。



共有を行えたことで、熊本におけるこれからの支援活動のあり方等について考え、支援者間で共有することができました。また、振り返りの研修等を行ったことで、地域の方々や他の支援者の方々とも学びを共有し、その後の支援に取り組みることが出来たのではないかと思います。ありがとうございました。



【フォーラム】

「熊本地震 これからの地域の復興に必要なこと」

日時

2018年7月7日(土)10:00-15:00

会場

御船街なかギャラリー南蔵

広報(チラシ)

御船町内84区、仮設住宅400世帯、町、県内地域支え合いセンター、火の国会議参加団体等計2000枚

内容

第一部 基調講演
「これからの地域の復興に必要なこと」
福地 成 氏 (みやぎ心のケアセンター副センター長)

第二部 宮城県被災地域視察研修報告会
コーディネーター: 熊本県社会福祉協議会

報告者と分担

1日目: 熊本県社会福祉協議会
(熊本県支え合いセンター支援事務所)

2日目: 傾聴ネットキーステーション、バルビー、御船ライオンズクラブ、Project九州、オールみふね竜電の郷復興プロジェクト

3日目: Project九州

熊本地震 これからの地域の復興に必要なこと



日時: 平成30年7月7日(土) 10:00~15:00
会場: 御船街なかギャラリー 南蔵

第1部 10:00~12:00
【基調講演】「これからの地域の復興に必要なこと」
福地 成 氏 (みやぎ心のケアセンター副センター長)

第2部 13:00~15:00
【宮城県被災地域視察研修報告会】
宮城県被災地域視察研修プロジェクト、御船ライオンズクラブ、バルビー、傾聴ネットキーステーション、熊本県社会福祉協議会、Project九州、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAO)



主催: 御船町社会福祉協議会
後援: 熊本県社会福祉協議会

主催者の言葉

熊本地震の発生から二年余りが経ちました。災害公営住宅をはじめとする新たな居住先への転居やそれともなう地域コミュニティ再構築の課題。一人暮らし世帯の方々の孤立や家族の問題など、復興が中・長期化することによるさまざまな課題が想定されます。

この講演会では、先災地である宮城県で地域の被災された方々に寄り添って復興の支援を続けられてきた、みやぎ心のケアセンター副センター長(元「地域支援部長」)の福地成(ふくちなる)氏をお招きして、これからの熊本の地域の復興にとって必要なさまざまなことについて、ワークショップを交えながら楽しく学ぶ機会としたいと思います。

また、午後は会を主催する御船町災害支援団体ネットワークが今年5月に東北の被災地を視察した報告会を行います。

震災7年が経った今だからこそ「地域の復興にとって必要なこと」について、東北の被災地を視察してきたこれまでの復興に関する成功事例、失敗事例など、貴重なお話を交えながら報告いたします。

行政、民間、支援者、住民自治などそれぞれの立場で復興に関わる方々にとって、これからの熊本の地域復興を考える良いヒントになればと考えています。皆様ご参加ください!

講師・話題提供者の紹介

== 基調講演 ==

福地 成 氏 (ふくち なる)
公益社団法人宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター副センター長 (元「地域支援部長」)
青森と北海道にて小児科産として勤務。主に地域の乳幼児健診、子どもの発達障害臨床に専事した。その後、宮城県にて精神科医として精神科救急、地域精神保健に従事した。東北大学大学院では公衆衛生学専攻にて、自らの疫学・予防の研究に従事した。2017年12月より、震災復興に専任した「みやぎ心のケアセンター」に勤務している。宮城県を中心として被災地の訪問、各種の普及啓発活動、地域支援者へのスーパーバイズなどを行っている。
<専門分野>
地域精神保健、児童精神医学

== 宮城県被災地域視察研修報告会 ==
御船町災害支援団体ネットワーク
御船町で被災地支援並びに住民交流を行っている、または行う予定がある団体が、それぞれ得意なことができる共有しながら協力して支援するための関係を作っていくためのネットワーク会主体。その地域で生じている課題を明確にしてそれぞれができる支援を形にし、有効な「支援活動」をする。そのために県の支援ネットワークなどほかの会議体でつながったことも共有しながら、御船町を支援する各団体が足並みをそろえて支援にあたった。

〈構成団体〉オールみふね竜電の郷復興プロジェクト、みふね宇ボコ会、御船ライオンズクラブ、エルビスくまもと、バルビー、傾聴ネットキーステーション、Project九州、御船町社会福祉協議会地域支え合いセンター、くまもと健康支援研究所(地域支え合いセンター)熊本YBC(御船町地域支え合いセンターなど)

○報告会参加者

参加者数: 約40人
町内のみならず、他被災市町村からの参加もあった。
参加者の所属は、仮設自治会、行政、社会福祉協議会、活動団体、メディア等。

※フォーラム当日に平成30年7月豪雨災害が起き、役場職員は役場や自宅待機となり、フォーラム参加が思うように叶わなかった。

○参加者アンケート回答より

基調講演について

・支援者としての頭の整理にとでも役立つ。(行政)

・サポートしすぎず、自主性、自治組織化に任せながらサポートしていく等、支援者側の姿勢が参考になった。(行政)

・目の前の支援だけでなく、根本の問題を解決することが必要ということが参考になった。過剰になりすぎない、しすぎないことなども。(行政)

・コミュニティ(集い)が時間の経過に伴って変化することや、過剰な警戒は、これまでの経験と異なる点が多く、より認識が強くなった。(行政)

・被災者支援という考えよりも、多くの住民を心豊かにするアプローチが支援者にとっても住民にとっても良い事に気づかされた。(社協)

・災害が起きてからの心の変化を色々な方面から聞けて良かった。(活動団体)

視察研修の報告について

・実際現場で見聞きしたこと、報告は参考になった。地域とのつながりを進めていく、先々の活動の参考になった。(行政)

・災害公営住宅の説明会の際に合わせてお茶会を開催するなど、具体的な取り組みが参考になった。(行政)

・今後の支援の方向性や具体策を見いだせた。(社協)

・色々な立場の団体からの発表で改めて地域支援に必要なことを認識でき、そのうえで自分の立場でやってみようことを考える手がかかりを得た。(活動団体)

・視察に行かれた目的や想いなどがはつきりしていて、今後の方向性が明確。大変参考になり、あらたな気持ちが出てきた。(活動団体)



公益財団法人熊本YMCA

回答者 藤川登士郎



①団体のミッション

共に生きる社会
地球環境の保全
生涯学習の推進
ウエルネス活動
ボランティア活動
平和な世界

ブランドスローガン

「みつかる。つながる。よくなっていく。」

②団体の活動内容

社会教育
ボランティア

③団体の御船町における熊本地震被災者支援に関する活動内容

熊本地震発災時より指定管理を受けていた御船町スポーツセンターを指定避難所として開設。

2016年11月～2019年3月まで、御船町地域支え合いセンターとして南木倉、落合、滝川、西木倉、西往還の仮設住宅住民の支援にあたる。

熊本YMCA

検索



<https://www.kumamoto-ymca.or.jp/>

御船ライオンズクラブ

回答者 古閑田 優子(事務局)



①団体のミッション(ライオンズクラブ国際協会の目的より抜粋)

- 世界の人々との間に相互理解の精神をつちかい発展させる。
- 地域社会の生活、文化、福祉および公德心の向上に積極的関心を示す。
- 奉仕の心を持つ人びとが個人の経済的報酬なしに社会に奉仕するようはげまし、また、商業、工業、専門職業、公共事業および個人事業の効率化をはかり、道徳的水準をさらに高める。

②団体の活動内容

御船ライオンズクラブは「青少年健全育成事業」と「環境保全事業」の二つの事業を柱として活動しています。

例えば、青少年健全育成事業としては、毎年町内及び姉妹クラブがある天草の小学生を交歓キャンプに引率したり、町内学校への活動助成を行っています。

環境保全事業としては、御船川の涵養林の整備を行い、植樹活動を行っています。

③団体の御船町における熊本地震被災者支援に関する活動内容

震災直後は、仮設テント設営や、支援物資提供などを行いました。その後は精神的ケアとして、姉妹クラブと協力して上天草市内旅館へのご招待や、仮設団地への慰問活動などを行ったり、各団体と協力して被災者支援イベントも行いました。また、今後起こりうる自然災害に備え、災害用ドローンを上益城消防組合へ寄贈しました。

時間とともに変化していくニーズに応えられるよう、何をすべきかを協議して活動して参りました。

御船ライオンズクラブ

検索



<https://www.facebook.com/mifunelionsclub/>

NPO法人傾聴ネットキーステーション

回答者 平江愛子



①団体のミッション

全ての人々に対して、相手の表情が見にくいこの社会にコミュニケーションの基本である「聴く」事の大切さを伝え、地域住民の心に寄り添い、悩みや不安に耳を傾け、心の安らぎを得る生活を送れるよう相互理解を深める支援事業を行い、安心と笑顔あふれる住民主体の町づくりと社会福祉の増進に寄与すること。

②団体の活動内容

- 1) 高齢者施設で、入所者の方への傾聴活動
- 2) 年2回自主講座として傾聴ボランティア養成講座、又、依頼による傾聴講座や傾聴講演、研修などへの講師派遣
- 3) 老若男女問わず、話を聴いて欲しい、話がしたいという方の為の傾聴café「花ことば」を開催

③団体の御船町における熊本地震被災者支援に関する活動内容

- 1) 「みんなの家」で、たこ焼き・絵手紙・アロマエアースプレー、アロマ石鹸つくりの体験をして貰い入居者同士のコミュニケーションの為の交流会を開催
- 2) 御船町主催又は地域主催のイベント会場に傾聴カフェを開催し地域の方々を含めた「心のケア」の支援活動
- 3) 仮設住宅入居者の方々への戸別訪問による傾聴活動

傾聴ネットキーステーション

検索

<https://ja-jp.facebook.com/keichonet/>

Project九州

回答者 吉村仁、宇津貴志



①団体のミッション

当団体スタッフは臨床心理士およびそれを目指す大学院生から成る。その専門性を活かしつつ、被災者が心の元気を取り戻せるような支援を行う。来談者を待つのではなく、実際にコミュニティに自ら溶け込み、被災者と交わる中で見えてくる心理的ニーズに寄り添う。

②団体の活動内容

- ・福岡県近辺で災害が発生した際に被災者に対して心理社会的支援を行う
- ・他団体や他機関と連携し、心理社会的な面からコンサルテーションを行う。
- ・心理職向けに災害臨床実践研究会を立ち上げ、全国的な規模でのネットワークを作成すべく活動中。

③団体の御船町における熊本地震被災者支援に関する活動内容

- ・避難所や仮設住宅談話室などでのイベントを中心に、孤立対策やコミュニティの促進などを目的として住民のニーズに合わせて支援活動を継続してきた。
- ・支援活動を通じてご縁ができた団体に呼び掛けて御船町支援団体ネットワーク「みふねっと」を設立した。

project九州

検索

<https://www.facebook.com/Project九州-1796657840554213>

特定非営利活動法人バルビー

回答者 中村聖悟



①団体のミッション

災害時に活動を行うことにより、生命並びに財産を守ることに寄与するとともに子ども、高齢者、孤立しがちな立場にある人々を含めた地域の復興活動を支援することにより、すべての人が自分らしく生きていけるまちづくりに貢献すること。特に熊本地震発災後に地元熊本が一人ひとりを大切にしつつ、助け合いのできるまちとして復興するための一助となるよう活動すること。

②団体の活動内容

災害緊急支援(先遣、アセスメント、ロジ、災害ボラセン運営支援など)
コミュニティづくり支援(中長期支援活動:仮設および地域のコミュニティ構築など)

③団体の御船町における熊本地震被災者支援に関する活動内容

- ・避難所環境改善支援(International Medical Corpsとして)
- ・建設型仮設住宅集会所へのAED寄贈(International Medical Corpsとして)
- ・建設型仮設住宅入居者交流支援
- ・地域住民交流会への協力(協力団体のコーディネート含む)
- ・復興イベントへの協力(協力団体のコーディネート含む)
- ・コミュニティ構築に関する集会所備品等の要請対応(調達及び搬入)

バルビー

検索

<http://bulby.net/>

御船町社会福祉協議会・地域支え合いセンター

回答者 中島直子、田中里美



①団体のミッション

【社協】社会福祉法第109条により規定された「地域福祉の推進を目的」とした団体で、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことができる「福祉のまちづくり」を推進することを使命としている。
【地域支え合いセンター】熊本地震で被災された被災者の安心できる日常生活を支え、生活再建と自立を総合的に支援する。

②団体の活動内容

【社協】
▶住民の福祉活動組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画・実施を行う。
▶住民と協働しながら地域づくりを行う。人材の育成、生活支援サービスの提供、困りごとの相談窓口、健康づくり教室などを行っている。
【地域支え合いセンター】巡回、訪問による被災者の生活状況の確認、課題把握と専門機関へのつなぎ

③団体の御船町における熊本地震被災者支援に関する活動内容

【社協】	【地域支え合いセンター】
・災害ボランティアセンター設置・運営	・巡回、訪問による生活状況の確認、課題把握と専門機関へのつなぎ
・熊本地震緊急小口資金貸付	・仮設サロンの運営、コミュニティづくり
・熊本地震相談対策相談支援員の設置	・みなし仮設交流支援
・地域支え合いセンターの設置・運営	・地域交流支援
	・災害公営住宅等のコミュニティ形成支援
	茶話会を開催し団地内の住民同士の親睦を図り、信頼関係を築くつなぎを行う。
	地域住民交流会を開催し団地住民と地域とのつながりを構築する。

御船町社会福祉協議会

検索

<https://www.shakyo.or.jp/hp/1664/>

生活協同組合くまもとより

熊本地震から5年が過ぎました。

これまで、御船町の各地域で住民交流会や炊き出し、親子映画上映会等の支援活動をさせていただきました。これらの支援活動は、全国の生協からの人的・物的支援や行政、社協、NPO支援団体との連携した活動が支えになり、実現できたと思います。

当生協では、これからも各団体との連携を深め、継続した支援活動を進めます。

特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク【KVOAD】



災害支援と持続可能な復旧・復興のコーディネートを行い、関係組織の連携および人材育成を図るために設立されたネットワーク。支援団体などによる被災者支援活動が効果的に行われるためには、支援のコーディネーションが不可欠であるため、官と民、民間団体同士の連携が構築され、災害時においては、被災地域や支援状況の全体像が把握されるようKVOADは連携の後押しと調整を行う。

これまで培った熊本地震におけるネットワークを一過性のもので終わらせず、継続して強化することで効率的な支援活動を行うことが重要と考え、「火の国会議」や行政・社協との連携会議を継続して行っている。2020年には県内で豪雨災害が発生し、課題解決に向けて県内外の関係者との情報共有や支援者のコーディネートを行っている。

主な活動

- ①被災者、地域ニーズの全体像の把握
- ②支援活動のコーディネーション
- ③人材・資金確保のための研修
- ④復旧復興に向けた支援策の提言
- ⑤活動に関する情報の効果的な共有



KVOAD

検索

<https://www.kvoad.com>

オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト



御船町の復旧を促進し、産業活力の復活、被災地域の復興、コミュニティの再生及び雇用の維持を図ることを目的に設立された団体で、①復興イベント事業、②恐竜を活用した事業、③震災の記憶継承事業、④雇用維持・創出事業、⑤ホームページ事業を行っている。

町内企業73社が手を取り合い、町と商工会の協力を得て全国的にも珍しく町というくくりでグループ補助金による復興的創造事業に取り組んでいる。

オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト

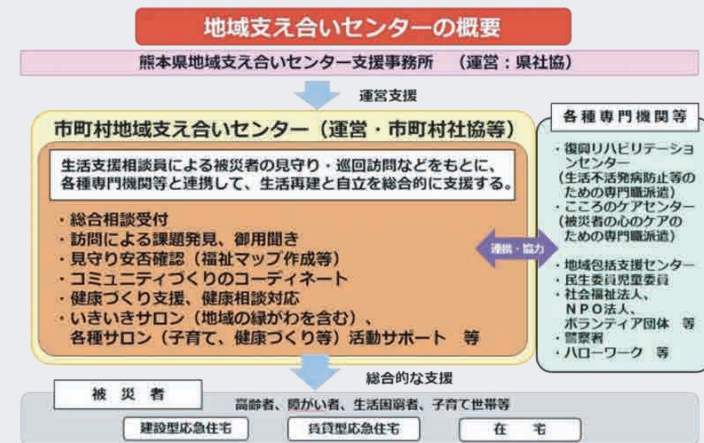
検索

<https://www.allmifune.com/>

熊本県地域支え合いセンター支援事務所



熊本県地域支え合いセンター支援事務所では、各市町村地域支え合いセンター職員の育成を目的とした人材研修の実施や、生活支援相談員の情報共有のための連絡会議の開催、各センターへ専門知識を有するアドバイザーの派遣、被災者支援に係る関係機関・団体との連携など、各市町村地域支え合いセンターの活動がより効率的、効果的に実施できるように様々な支援メニューでサポートします。



出典:熊本県社会福祉協議会ホームページ

熊本県地域支え合いセンター支援事務所

検索

http://www.fukushi-kumamoto.or.jp/top/default_c10.asp

建設型仮設住宅

最大入居者数:1,096人(419戸)

借上型仮設住宅

最大入居者数:1,004人(385戸)

○建設型仮設住宅

御船町の特徴として、できる限り元地区で生活が継続できるように配慮され、最大数の小規模な仮設住宅が整備された。現在いるが、建設型仮設住宅であり、そのうちの半数は単独住宅(公営住宅法に基づかない町が所有する住宅)として、その後も活用されている。集会施設(みんなの家)の中には、町内で移設して活用されているものもある。



結果的に県内で建設型仮設住宅では退去が済んで住宅の一部は木造住宅として活用されている。

建設型仮設住宅

仮設団地名	戸数	集会施設	集会室利活用※
高木	22	談話室	茶屋の本公民館
木倉	15		
旧七滝中	24	談話室	七滝中央小学校放課後児童クラブ
七滝	14		
小坂	24	談話室	御船町ふれあい広場交流センター
ふれあい広場	22	談話室	御船町ふれあい広場交流センター
玉虫	16	みんなの家(日本財団)	
田代東部	13		
陣	12		
南木倉	55	集会所	牛ヶ瀬2区みんなの家
今城	33	談話室	
滝川	21	談話室	
甘木	8	みんなの家(日本財団)	
西木倉	12		
高木第2	8		
ふれあい広場第2	20	談話室	御船町ふれあい広場交流センター
下高野	11		
東小坂	10	コミュニティスペース(KASEIプロジェクト)	
下高野第2	22	談話室	
落合	42	談話室	
西往環	21	談話室	浄光寺公民館
21団地	425戸	14棟	

(※出典:熊本地震「みんなの家」利活用プロジェクト<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/115/51277.html>)

災害公営住宅

団地名	戸数	完成時期
古閑迫	10	2019年3月
一丁目第2	20	2019年3月
木倉	8	2019年5月
旭町	10	2019年5月
小坂	19	2019年9月
一丁目第1	20	2019年11月
上高野	13	2020年2月
7団地	100戸	



※現在は、呼称が改められている。(災害救助法 令和元年10月公布)「建設型仮設住宅」→「建設型応急住宅」「借上型仮設住宅」→「賃貸型応急住宅」(参考:内閣府防災情報のページ「災害救助法」<http://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujyo/kyuujyo.html>)

熊本地震による

御船町の被害について

2016年4月に発生した熊本地震。2回の強い揺れと継続的な余震は、多くの市町村で甚大な被害をもたらした。御船町でも、多くの人や地域、家屋をはじめとした建物、農地、インフラ等が大きな被害を受けた。

御船町平成28年熊本地震災害記録誌に詳細が記録されており、御船町役場の許可を得て次頁にそのまま掲載する。



御船町や熊本地震による御船町の被害

御船町

熊本市の東南16.6kmに位置。東西約20km、南北約10kmに広がり、北は益城町、東北は西原村、東は山都町、北西は嘉島町、西は熊本市、南は美里町、南西は甲佐町と隣接する。

面積……99.03平方km
人口……169,272人
世帯数……72,622世帯(2021年3月末現在)
高齢化率……34.8%

(出典:御船町ホームページ
<https://www.mifune.kumamoto.jp/page448.html>
令和3年全国都府県市町村別面積調
広報みふね2021年4月号)

魅力ポイント☆

《恐竜》
・日本初の肉食恐竜の化石が発見され「恐竜の郷」として知られる。町内に広く分布する御船層群からは、国内で最も多様な恐竜化石が見つかっており、重要な学術的財産である。御船町恐竜博物館は、貴重な資料を守り、それを社会に共有している。

《歴史》
・江戸時代から昭和初期まで、県下第一の「酒造りの町」だった。御船川沿いには「白壁の

熊本の中心に位置する
「ちょうどいい田舎」

御船町



酒蔵」が立ち並んでいた。御船街なかギャラリーは、そんな昔の町の面影を残している歴史的な建造物で、会議やイベント等に借りることができる。みふねつとでもフォーラムや交流会のために使用した。

多くの石橋が現存。元禄井出、嘉永井出の歴史も興味深い。

《自然》
・阿蘇外輪山の南側に位置する「吉無田水源」は、湧水量が1日あたり13000トンで、「くまもと名水百選」に選定されている。江戸時代の植林がもたらしたこの湧水源は、その後建設された用水路である元禄井出や嘉永井出を通して、町の生活用水、農業用水として重宝されている。

・吉無田高原では、四季折々の大自然を活かした草スキー、キャンプなど様々な体験や遊びができる。

・自然とともに魅力的なカフェや窯元がある。

(参考:御船町町勢要覧2021、御船町のお出かけ・観光情報サイト<https://www.mifune-kankou.jp/>、御船町恐竜博物館<https://mifunemuseum.jp/>)





ブルーシートを被った屋根が続く御船町内

御船町の被災状況の概要

2016(平成28)年4月14日午後9時26分の「前震」に続き4月16日午前1時25分の「本震」による大規模地震は、後に「平成28年熊本地震」と名付けられました。激しい揺れは、熊本地方・阿蘇地方を中心にした熊本県内全域と大分県西部・中部に大きな被害をもたらしました。

御船町でも「前震」(震度5強)、「本震」(震度6弱)とその後の余震により人的・住家被害のほか、道路、橋梁、河川、農地、農業用施設、学校教育施設、社会教育・社会体育施設、文化財などに被害が発生しました。

御船町には、御船川をはじめとした多くの河川が流れているため、熊本地震の影響で地盤のゆるみや地割れの箇所が数多く発生。さらに、その後の梅雨期の豪雨で、浸水被害や土砂災害が起き、被害を大きくしています。

2度の強い揺れと、それに続く余震、そして大雨によって、御船町内では自宅を離れて仮設住宅での暮らしを強いられることになった方が、およそ800世帯にのぼりました。

また、幹線道路である国道445号は、滝尾地区でのがけ崩れによって長い期間通行止めが続きました。このほか、御船町の主要な産業である農業への被害も大きなものがありました。とくに中山間地を中心に水田の「あぜ」が崩れたり、水路ががけ崩れの土砂で埋まり、農業用水の確保が出来なくなった農地が数多くありました。

このように、熊本地震が御船町で暮らす方々の日常生活や産業活動に与えた影響は大変大きく、しかも長期間にわたっています。

強い揺れが建物への被害を拡大

【住家の被害】

熊本地震の強い揺れで、御船町内の多くの住家が被害を受けました。被害の状況を罹災証明書の交付の状況からみると、「損壊が著しい」とされる「全壊」と「大規模半壊」が、御船町全体でおよそ800世帯。建物が集まる町西部で「全壊」と「大規模半壊」が多くなりました。

【公共施設の被害】

公共施設については、御船町役場庁舎をはじめ、学校教育施設、社会教育施設など、町民の皆さんの



天井が落下しそうなスポーツセンター

日常生活を支える身近な施設のほとんどが被害を受けました。

学校教育施設では、町内7小学校のすべてに被害が及びました。その中には、小坂小学校や高木保育園のように、使用できなくなった教育施設もあります。また、スポーツセンターや滝尾小学校では、避難所として使用するための施設が被害を受けたため、避難や応急対策のために十分な機能を発揮できなくなりました。

社会教育施設では、町中心地にあるスポーツセンターや御船町恐竜博物館のほか、中山間地の旧小学校施設である水越社会教育センター、七滝社会教育センター、上野社会教育センター、田代東部社会教育センター、田代西部福祉センターが被害を受けています。

【地域のコミュニティを支える施設等の被害】



被害を受けた田代地区の干無田公民館

町内の公民館については、10の分館のうち9つの分館に被害が及びました。また、避難所として活用されることになったカルチャーセンターにも被害があり、被害箇所以外のスペースを使って町民の方たちが避難生活を送りました。このほか、各地区に

ある自治公民館や神社・仏閣・お堂など、各地域で暮らす方たちのコミュニティの場となっている施設・建物の多くが被害を受けています。

甚大だったインフラへの被害

【道路・橋りょうの被害】



崩れた八勢目鑑橋

熊本地震は社会生活や産業活動にとって最も基本となる「インフラ」を直撃し、長い期間、その機能を停止したため、日常生活に大きな影響をもたらしました。

御船町でも、道路・橋りょう、河川・水路、公園・広場、水道といった生活に直結したインフラ機能に大きな被害が及びました。

道路では、地震の強い揺れによって路面の隆起や陥没、亀裂などが無数みられました。また、がけ崩れなどで、国道をはじめ県道、町道、林道、その他の生活道路で、通行止めや通行しにくい箇所が多数生まれました。とくに、御船町市街地から山都町へ通じる国道445号は、滝尾地区で道路横の斜面が崩れ、およそ6キロにわたる区間が通行止めとなりました。そのために、滝尾小学校への通学が一時的にできなくなるという事態となりました。

橋りょうでは、熊本県指定重要文化財の八勢目鑑橋が被害を受けました。その他、町内を流れる御船川、八勢川、矢形川などに架かる多くの橋に損傷や崩落などの被害がありました。

【河川・水路の被害】

強い揺れは、河川・水路にも大きな被害を及ぼしました。多くの箇所で堤防の沈下や亀裂が発生するなどの損傷がありました。その結果、熊本地震後の梅雨期の豪雨による水害リスクを高めることになりました。

河川のうち、一級河川御船川は御船町の中心市街地を流れるために、水害に備えて、堤防等の復旧に急いで取り組みました。また、小坂地区では御船川に架かる橋が通行止めとなったため、御船川右岸に通じる生活道路が使えなくなるなど、日常生活にも大きな影響が出ました。さらに、町内各所では堤防等の復旧工事によって一時的に道路の通行止め区間が発生し、日常生活に影響を及ぼしました。

【公園・広場の被害】



地面に大きなひびが入った町民グラウンド

公園・広場にも熊本地震の被害は及びました。段差や亀裂のほか、遊具や設備にも破損が発生。とくに、御船町役場庁舎近くの「ふれあい広場」や町民グラウンドの被害が大きくなりました。また、「ふれあい広場」には、震災直後に仮設住宅団地が設けられた影響で、公園としての機能が一時的に停止しました。

【水道の被害】

熊本地震での強い揺れは、水道施設にも甚大な被害をもたらしました。御船町の広範囲にわたり、水道管の損傷や破裂などが発生。上水道・簡易水道への被害は大きく、熊本地震直後から御船町全体で断水状態となりました。水道管の復旧工事は昼夜にわたり続けられましたが、場所によっては1カ月以上も上水道が使えない地域がありました。

重大な影響を及ぼした土砂災害

東部に広い山地や丘陵地を抱える御船町には急傾斜地も多く、熊本地震の強烈な揺れによって、がけ崩れや地盤がずれる箇所が無数に発生しました。さらに、震災後の梅雨期の豪雨によって斜面が崩落する土砂災害が続発しています。こうした土砂災害は、麓の集落に被害を及ぼし、人家の倒壊や道路の寸断



通行止めになった国道445号

などの二次災害が発生しました。道路が通行止めとなったため、孤立する集落も現れました。

また、地すべりやがけ崩れなどの危険から避難勧告・指示が発令された地区もありました。とくに町管中原団地一帯の108世帯は、長期的な避難が必要となる「長期避難世帯」に認定されました。

「長期避難世帯」は、被災者生活再建支援法に基づく支援制度で、地震や風水害などの後、危険な状態が長く続く世帯が対象となります。認定によって、安全が確保されたと認められるまで住めなくなるため、地区で暮らす方々が長期間の避難生活を強いられました。

産業被害では農業などが打撃を受ける

【基幹産業・農業の被害】

熊本地震では農地の亀裂、「あぜ」や農地の斜面が崩れる被害が広い範囲で発生。また、農業用の水路が壊れる被害も生まれ、梅雨時期の豪雨が、これらの被害を一層拡大しました。とくに、傾斜地に拓かれた棚田の多い中山間地での被害が多くみられました。

そのうち、町東部の七滝土地改良区では、江戸時代に拓かれた「元禄井手」と「嘉永井手」が地震によって破損。土砂が水路に流れ込んだため、2016年にはコメの作付ができなくなりました。

被害を受けた農地や農業施設を復旧するには、農家の費用負担が大きく、農業従事者の高齢化や後継者難もあり、震災後に廃業を考える農家が現れています。

【商工業・観光業の被害】

震災は、町内の商工業にも大きな影響をもたらしました。多くの商店や工場、事務所などで建物や設

備の損傷があり、インフラへの被害もあって売上の減少や利益率の低下などがみられました。観光面からは、「日本一の恐竜化石発掘のまち」の拠点であ

る御船町恐竜博物館で展示物が破損。また、恐竜化石発掘広場が一時的に閉鎖されるなど、観光面からの影響も無視できないものがありました。

表1 「熊本地震による御船町における被害の規模」

区 分		規 模	備 考
人的被害	死者	10人	2019年1月11日時点
	負傷者	11人	〃
	軽傷者	10人	〃
住家被害	全壊	444世帯	〃
	大規模半壊	425世帯	〃
	半壊	1,972世帯	〃
	一部損壊	2,178世帯	〃

区 分		規 模	備 考
避難勧告	最大	全世帯	2016年4月16日時点
避難指示	最大	108世帯	2016年4月24日時点
避難者	最大	6,191人	2016年4月17日時点
避難所	最大	40カ所	〃
断水世帯	最大	6,609世帯	2016年4月16日時点
通行止	最大	19路線	2016年4月25日時点





「みふねつ」との活動の変化と課題

御

船町における支援活動団体の成果は、各団体の報告により挙がっており、ここでは「みふねつ」について概述する。「みふねつ」とは御船町で活動する各団体間で情報の共有を図り、団体同士のつながりを維持し、さらにネットワークを広げることが目的であった。また、もう一つの役割としては中間支援機能として、参加団体の活動だけでなく、各活動を下から支える「縁の下の力持ち」の役割を担うことを期待していた。しかし、時間と共に外部からの支援活動も徐々に薄れ、当初から見込まれていたのであれば、地元での復興が継続していくように「引き継ぎ」をしていくことが大切であり、次なる担い手が被災者の中からも生まれるような仕掛けをしてからの撤退が望ましかった。

支援前の想いが強く、①とにかく被災地へ、②団体としてのミッションのため、③何かしたいため、「とにかく被災地の助けになりたい」との想いが優先されてしまい、支援前の目的や動機付けが明確になつていなかった点が要因として考えられる。

また、実際に支援を行っていく過程で、県外若しくは町外からの支援団体は本来の事業も抱えていたこともあり、支援当初は目の前にある課題に取り組んでいたが、長期化することで被災者が抱える課題が変化し、得意・不得意の活動分野も明確になり、不得意の分野を他の団体へ任せてしまうことが生じていたのも事実である。

県外団体としての自覚

地元団体として被災者支援を経験し、また県外支援者としての支援も経験した上で提言するならば、県外からの支援者は、経験者気取りというか、あれこれと指図をしたり、行政や社協のやり方に批判的な態度をとるだけでかえって現地を混乱させるので注意が必要である。

ま

た、経験豊富な支援団体が被災地に出かけること自体は有難いことであるが、現地の土地勘も詳しい事情も分らない人が、突然後からやってくる指図をするというのは、不満を抱かれる要因となる場合が多い。

代表理事 樋口 務



熊本地震発生直後から現在も開催されている「火の国会議」。支援活動を継続しているNPO等支援団体の情報共有の場となっている。感染予防対策(体温計測、消毒、空気清浄等)およびWEB参加も可能。毎週火曜日(18:00-)

総括

連携の効果

みふねつとができたことで、団体間での情報共有が可能となった。各団体の視点であった課題に対して、みふねつと参加団体が得意分野を活かしながら連携して関わることで、被災住民への的確な支援につながった。特に、地域支え合いセンター(御船町社会福祉協議会および再委託先の熊本YMCAとくまもと健康支援研究所)が会議に参加し、密な連携ができたことで、被災者及び地域のニーズ把握と仮設住宅(みなし仮設含む)入居者や被災地域へ効果的な支援ができた意義は大きい。例えば、社協地域支え合いセンターが、各地区の地域住民を支えながら創った地域住民交流の機会には、地域の方だけでなく、他地域にみなし入居されている方、地区近隣の仮設団地入居者も参加できるよう工夫がされており、その会にみふねつと参加団体が継続的に協力できたことも連携の成果である。なお、社協を通じて町との関係性も深まり、行政側から支援に関する相談をされることもあった。

さらに、みふねつとして先災地の視察研修を

み

ふねつとは、連携した活動を進めていく中で会議体が立ち上がった。必要性を実感して開始された会議だったことで、連携を強化しながら実践を伴う会議であることができた。

町内団体の参加

御船町住民で構成されている御船ライオンズクラブとオールみふね恐竜の郷復興プロジェクトが継続的に参加したことで、町としての復興の方向性や各地域や住民の状況や課題などを含め、情報把握が可能であったことは、みふねつとの大きな強みであった。御船ライオンズクラブやオールみふね恐竜の郷復興プロジェクトには、区長等の地域リーダーが多く存在していた。そのため、区長・民生委員との連携を深める機会として交流会を行った際にも、区長会等のみふねつとの説明を行い、地元に対して交流会の案内をする役割を担っていた。また、この2団体及び地域支え合いセンターを担っていた熊本YMCAは、御船町民のための大きなイベントを開催しているが、これら

団体間の役割分担

のイベントにおいても協力要請に応じる形でみふねつと参加団体の協力が実現している。

日々多くの協働作業を行った。会議運営の面では事前打ち合わせ、次第作成、進行、議事録作成と確認、参加者への共有、メーリングリスト管理など、運営団体が力を合わせて、また役割分担をすることでみふねつとが継続できた。つまり、運営自体が連携そのものであったと言える。活動の面では、ある活動を主催する団体への協力をはじめ、複数団体で連携した活動を多く行った。協力団体の調整、各地域支え合いセンター(※)との連携や活動申請と活動報告、事前準備など、役割分担や協力することで活動を円滑にできた。そして、ともに活動することで団体間の関係性がより深まった。

(※)御船町では御船町社会福祉協議会・熊本YMCA、くまもと健康支援研究所が分担しセンター機能を担っていたため、仮設団地で活動するにあたり各仮設担当のセンターとの調整が必要だった。

会議体のはじまり… 旗振り役の重要性

みふねつとはじまりには、福岡に拠点を置く団体であるProject九州が大きな役割を果たした。Project九州は、避難所時期から被災者支援を行っており、発災当初から御船町の住民とかかわる中で、各団体が町内で個別に活動している状況で生じる支援の重複・モレ・ムラが生じることを懸念していた。そのような状況を防ぐための連携の必要性を他団体に説き、ネットワーク構築の旗を振り、運営の中心を担った。当時の御船町での支援団体の状況を振り返ると、呼びかけ人、旗振り役が存在は会議体の設立の原動力として不可欠であった。

2 017年8月、みふねつとの活動は、地域における支援団体ネットワーク強化を指していたジャパン・プラットフォーム(JPF)の助成対象となった。Project九州が幹事団体を担っていたが、2017年7月に発災した九州北部豪雨災害における支援活動のため、Project九州は2017年8月から2018年1月まで会議を欠席した。幸い、運営事務局をProject九州、傾聴ネットワーク、ジョン・バルビーの3団体で構成していたことにより、その間も他2団体により滞りなく会議運営ができた。運営事務局を複数の団体で協力しながら担っていたことは有効であった。

形成や地域とつなぐ支援など、今後の取り組みも具体的に検討されていた。あの時点で、現実的な継続方法や解散もしくは定例会議を終了することについて、全体で十分に検討がされないままであったことは心残りである。

会議体で得た学び

各団体にはそれぞれミッションがある。成り立ちや活動目標、そして立場も異なることから、視点が違うことは当然である。しかし、各団体の特徴や強みを尊重しながら、必要とされる支援に対応するために課題や支援の目標を共有し、各自の得意なところを活かし、弱いところを補充し合いながら連携した活動することは可能である。顔合わせをすることで、お互いを知り、信頼関係を築くことができ、その結果、意見交換をすることができ、異なる視点があるからこそ、有意義な意見交換として有効な活動につながる事ができる。被災した人や被災した地域が主体であることを確認する場、把握したニーズに即した活動の必要性を共有する場としても機能することができた。また、行政や社会福祉協議会と活動団体の連携のための窓口の役割を果たすこともできる。会議が終了することやネットワークが解散すること自体がネガティブなことではない。単に会議を継続することは誰にでも負担になるものである

会議体のおわりと課題… 運営体制の重要性

1年間のJPF事業終了にともない、Project九州から、事務局と幹事を地元団体に引き継ぎたいという意思表示があり、みふねつと会議で協議が行われた。その結果、次期事業を中心として担う幹事団体が決定しなかったことや、事業案が明確にならなかったこともあり、JPF事業の助成を申請しないことを決定した。同時に会議運営に必要な作業の共有や進行と議事録作成は持ち回りにすることも決定した。



しかしながら、みふねつとの運営体制は、あいまのままになってしまい、町内団体が中心になって会議日程の調整等を行っていたが、次第に会議が開催されない状況になった。

数カ月後、御船ライオンズクラブの呼びかけにより解散式が開かれたことで、参加団体が再度顔を合わせることができ、会議体としての一旦の区切りとすることができた。(▶解散式当日、御船ライオンズクラブより、御船町で活動している団体に感謝状が贈られた)

ため、被災した人や地域の状況の変化に応じて目的を再確認し必要な変化をすること、また状況を踏まえて建設的解散をすること、終わる時期や終り方を検討することも会議体として必要なことである。その際、可能な限り、運営側の都合ではなく被災地域の状況から判断することが大事であると思う。

地元団体の定義

「地元団体」と表現される際、狭義の地元(被災地域)団体なのか、はたまた被災市町村で活動が可能な広義の地元(県内)団体も含まれるのか等、いつも不明瞭であると感じる。被災市町村が主体であることは当然だが、会議体の運営主体は、被災市町村の担い手を支えつつ、必要がある限りは責任を持って関わり続けられる団体であればいいのではないだろうか。

みふねつと解散後の連携

みふねつと解散後も、連携した活動は継続した。会議や協働での活動を通して構築された関係性があるからこそ、定期的に顔を合わせなくても連携ができる状態が維持されていることがうかがえる。災害時に限らず今後も、再び力を合わせる機会

Project九州は、福岡県を拠点とする団体であり、本職を持ちながら会議運営や活動のために隣県とはいえ福岡県と御船町を往復する負担が大きかった。また、自らも被災をし、本業の仕事も継続しながら、御船町の復興のために尽力している町内団体においては、運営への協力は惜しまないが、ネットワークの中心を担うのは困難な状況であった。そもそも災害支援団体ではないことや、この話が唐突であったことを会議で発言されたことからも理解できる。



さらに、会議に関する連絡調整や議事録作成等、慣れない作業への不安もあった。みふねつとの継続や会議の開催が必要であるという認識が共通のものだったのであれば、まずは比較

的余力や経験のある町外の団体がProject九州から幹事を引き継ぎ、しばらくの間、運営の要となつてもよかつたのかもしれない。

みふねつとして、いずれ地域支え合いセンターは終了するという認識のもと、みふねつと内、地域役員、市民団体等での被災者の現状の情報共有の場の必要性、テーマ別の行政と民間の連携と役割分担、恒久的住まいに移行する中でコミュニケーション

があろう。ここでつながった人たちは、必要に応じて連携が円滑にできるものと確信する。一方、被災者支援の要である地域支え合いセンターは、災害公営住宅が完成した後は入居者の交流のための集いも含め、コロナ禍での対策を強いらねがらも、役場と連携しながら被災者の見守りや地域での取り組みを継続した。センター閉所後も、御船町社会福祉協議会が支援を継続している。

みふねつとの活動を通じ、御船町社会福祉協議会や地域支え合いセンターと密に連携ができ、関係が構築されており、今後も必要時にすぐに協力体制をつくることのできるようになっていく。みふねつとに参加していた団体にできることがあれば協力したい。



体への聞き取りの中で、「支援に入るとき最初からみふねつ」という組織があれば、団体が入りやすかつたのではないかと」という声があった。今回は地震発生を機に「みふねつ」というネットワークができたが、平時から市町村域のネットワークが存在することは、災害発生時等の有効な連携に寄与するだろう。立場の異なる団体と団体として人と人がつながったという意味で、御船町にネットワークが残ったのであれば、みふねつが存在した意義がある。

2021年5月10日 発行

制作・発行 特定非営利活動法人バルビー
熊本市東区若葉4丁目19-18
<http://bulby.net>

協力 御船ライオンズクラブ
Project九州
NPO法人傾聴ネットキーステーション
公益財団法人熊本YMCA
御船町社会福祉協議会・御船町地域支え合いセンター
社会福祉法人御船町社会福祉協議会
御船町復興課復興推進係
御船町総務課地域・防災係
社会福祉法人熊本県社会福祉協議会 熊本県地域支え合いセンター支援事務所
特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク

Special thanks 生活協同組合くまもと

みふねっとの試行錯誤の足取りが、市町村域の連携会議体の一例として、連携した活動に取り組もうとされている方々のお役に立てばうれしいです。私たちも、みふねっとを通して経験し学んだことを糧に活動していきます。みふねっとの振り返りにあたりご協力いただいた団体のみなさまにお礼申し上げます。合わせて、みふねっとで活動をともにした団体のみなさまに感謝いたします。また、御船町での活動において、他にも連携、力添えいただいた団体があったことをここに申し添えます。

あの時期に御船町で培った関係がいまもあることを改めて感じています。そして、福富さんの静かな暖かさがいつも大きな支えでした。忘れません。御船町にこころを寄せて。

